

平成28年度

事業年報

公益財団法人 岡山県健康づくり財団

は じ め に

当財団は平成3年8月に設立されて以来、県民皆様の疾病予防や健康づくりを支援するとともに県や市町村の保健衛生、環境施策を補完する事業により地域に貢献することを目指して、健康診断事業をはじめ、各種環境検査事業、病院事業、健康づくり支援事業等に取り組んでまいりました。

この冊子は、当財団の平成28年度における事業内容の記録として作成したものであります。

ご高覧のうえご指導を賜りますとともに業務の参考としていただければ幸甚に存じます。

今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 石川 紘

目 次

I	事業内容	1
II	役員名簿	2
III	組織	3
1	組織図	3
2	職種別、組織別職員数	4
IV	事業報告	
1	保健部	5
(1)	住民健診	5
1.	特定健診・後期高齢者健診	5
2.	肝炎ウイルス検査	7
(2)	保健指導	8
(3)	一般健康診断	9
(4)	特殊健康診断	10
(5)	胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）	11
(6)	胃がん検診	15
(7)	子宮がん検診	18
(8)	乳がん検診	21
(9)	大腸がん検診	24
(10)	前立腺がん検診	27
(11)	骨粗鬆症検診	29
(12)	学校保健検査	30
1.	尿検査	30
2.	寄生虫検査	32
3.	貧血検査	34
4.	心臓検診	35
5.	小児生活習慣病予防健診	36
(13)	先天性代謝異常等検査	38
2	環境部	40
(1)	飲料水検査	40
(2)	簡易専用水道検査	42

(3) 浄化槽法定検査	4 4
(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査	4 6
(5) 産業排水検査	4 8
(6) 河川水検査	5 0
(7) 食品検査	5 2
(8) 腸内細菌検査等	5 4
(9) その他の検査	5 5
(10) 精度管理	5 6
3 食鳥検査事業	5 8
4 附属病院	6 1
(1) 外来状況	6 1
(2) 入院状況	6 2
(3) リハビリテーション	6 3
(4) 先進の医療機器による検査	6 3
(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供	6 3
(6) 地域連携の推進	6 4
(7) 結核医療連携拠点病院の指定	6 4
(8) 指導・相談	6 4
(9) 財団各部門との連携	6 5
(10) 難病相談・支援事業	6 5
5 南部健康づくりセンター	6 6
(1) 健康増進部門	6 6
1. ヘルスチェックの状況	6 6
2. 施設自由（フリー）利用状況	6 8
3. お手軽教室	6 9
4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室	7 1
5. リラクセーションセミナー	7 4
6. 健康増進指導体験	7 4
(2) 教育・研修部門	7 5
1. 派遣事業	7 5
2. 図書資料室	7 6
3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室	7 6
4. 研究室の開放	7 6

(3) 調査・研究部門	77
1. 業績	77
(4) スポーツ医科学部門	78
1. 受診者数及びその内訳	78
(5) 健康診断（人間ドック）部門	79
1. 人間ドック	79
2. 脳ドック	83
3. らせんCT胸部検診	84
6 普及啓発事業	85
(1) 財団の広報	85
(2) 結核予防に関する事業	85
(3) がん予防に関する事業	86
(4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）	87
(5) 「健康おかやま21」への参加	87
(6) 助成事業	88
(7) 会議等の開催	89

I 事業内容

- (1) 健康づくり及び結核、がん、循環器疾患等の予防に関する知識の普及啓発及び調査研究
- (2) 健康づくりの実践活動に対する指導及び援助
- (3) 結核、がん、生活習慣病等の健康診査
- (4) 保健及び医療に関する情報の収集及び提供
- (5) 保健医療従事者及び健康づくり指導者の養成及び研修
- (6) 結核及び呼吸器疾患を中心とする医療
- (7) 保健及び医療に関する臨床検査
- (8) 食品衛生に関する試験検査
- (9) 浄化槽法定検査事業
- (10) 飲料水水質の試験検査
- (11) 簡易専用水道検査事業
- (12) 環境計量証明事業
- (13) その他生活環境の保全に関する試験検査
- (14) 食鳥検査事業
- (15) その他財団の目的を達成するために必要な事業

Ⅱ 役員名簿

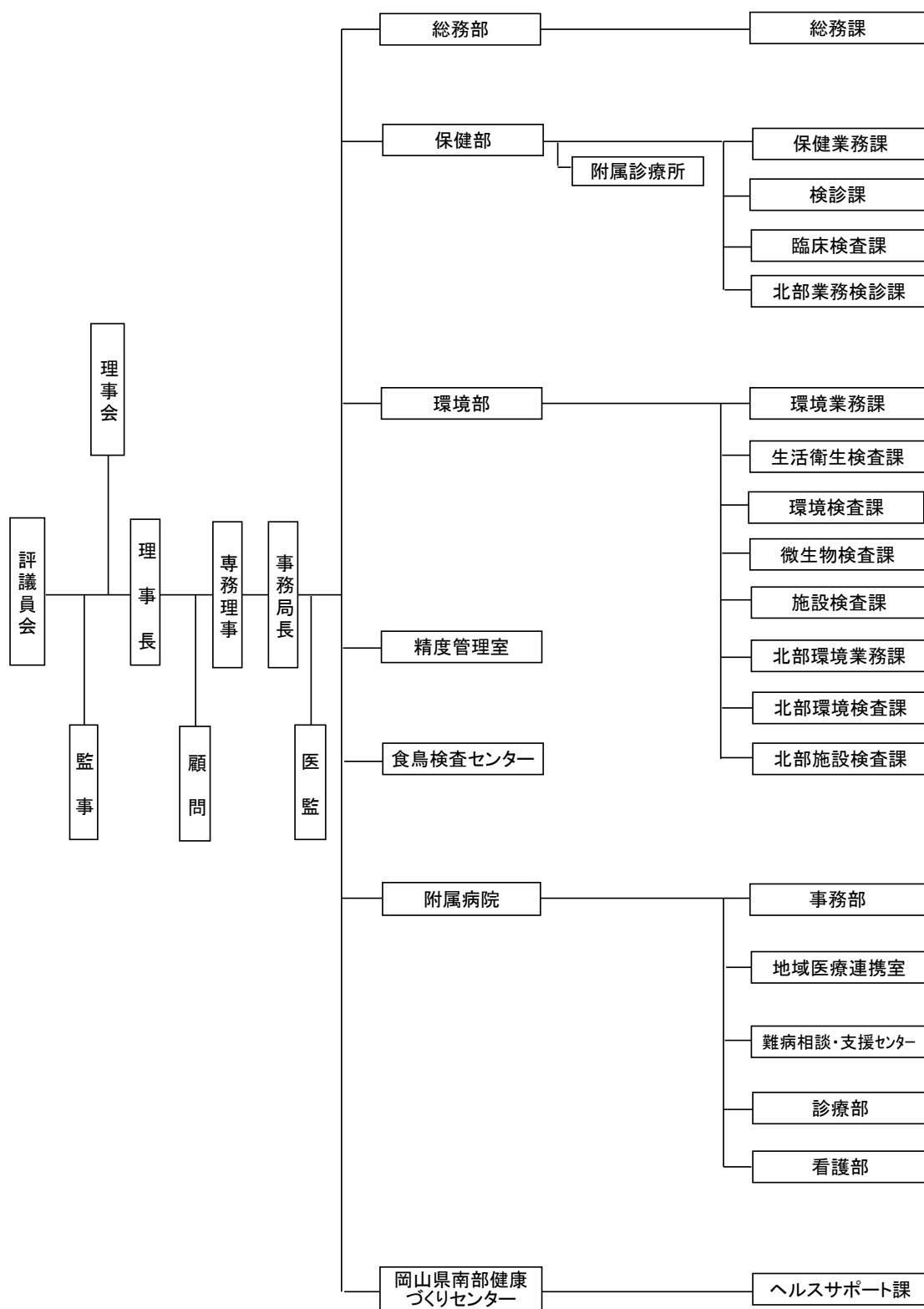
平成28年4月1日現在

役職名	氏 名	備 考
評議員	荒 木 裕 人	岡山県保健福祉部長
〃	清 水 信 義	岡山県医師会副会長
〃	難 波 義 夫	岡山県病院協会会長
〃	内 田 耕 三 郎	岡山市医師会長
〃	薄 元 亮 二	津山市医師会長
〃	大 塚 愛 二	岡山大学医学部長
〃	内 山 登	岡山県議会議員
〃	福 永 仁 夫	川崎医科大学長
〃	酒 井 昭 則	岡山県歯科医師会長
〃	赤 澤 昌 樹	岡山県薬剤師会長
〃	瀧 本 豊 文	岡山県市長会長
〃	河 島 建 一	岡山県町村会長
〃	藤 本 貴 子	岡山県愛育委員連合会長
〃	中 川 初 美	岡山県栄養改善協議会長
理事長 (代表理事)	石 川 紘	岡山県医師会長
専務理事 (業務執行理事)	大 森 弘 介	岡山県健康づくり財団専務理事
理 事	阪 本 文 雄	山陽新聞社会事業団専務理事
〃	岡 崎 邦 泰	日本乳がん検診学会名誉会員
〃	森 恵 子	岡山県栄養士会長
〃	石 本 傳 江	岡山県看護協会会長
〃	守 谷 欣 明	岡山県健康づくり財団名誉顧問
〃	守 安 秀 徳	岡山県健康づくり財団環境部長
〃	西 井 研 治	医監 (兼)岡山県健康づくり財団附属病院長
〃	發 坂 耕 治	元岡山県健康づくり財団保健部長 (兼)岡山県南部健康づくりセンター長
監 事	有 本 耕 平	弁護士
〃	小 川 洋 一	公認会計士・税理士

III 組織

1 組織図

平成28年4月1日現在



2 職 種 別 ・ 組 織 別 職 員 数

平成28年4月1日現在

	事務職	医師	保健師・ 看護師・ 准看護師	放射線 技師	臨床 検査技師	理学 療法士	環境 検査技師	薬剤師	栄養士・ 調理員	介護職	運動 指導員等	食鳥 検査員	合 計
総務部	13												13
保健部	36	3	28	13	22	2							104
環境部	19				1		60						80
食鳥検査 センター	1						1					14	16
附属病院	14	5	44	1		2		2	12	16			96
南部健康 づくりセ ンター	11	2	7	5	3				2		6		36
合 計	94	10	79	19	26	4	61	2	14	16	6	14	345

Ⅳ 事業報告

1 保 健 部

(1) 住民健診

1. 特定健診・後期高齢者健診

1) 健診概要

目的：生活習慣病の予防

対象：特定健診：医療保険加入者で、実施年度中に40～75歳になる者
後期高齢者健診：76歳以上の者

補足)・対象年齢の誕生日以前等での振り分けは各市町によって異なる。

・医療保険加入者：国保加入者及び、被用者保険の被扶養者を対象として集計している。

2) 実施状況

13市町から委託を受け、19,883人の健診を実施し、前年度に比べ17人(0.09%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
特定健診	国保	12,672	12,149	12,120	12,346	11,552
	他健保	911	1,447	1,394	1,595	4,502
	その他	212	334	1,575	2,309	346
後期高齢者健診		3,963	3,795	3,811	3,616	3,483
計		17,758	17,725	18,900	19,866	19,883

② メタボリックシンドローム判定内訳(国保、他健保)

(人)

区分	性別	受診者数	メタボリックシンドローム判定結果内訳					
			該当		予備群		非該当	
国保	男性	5,005	1,176	23.5%	815	16.3%	3,014	60.2%
	女性	6,547	486	7.4%	345	5.3%	5,716	87.3%
他健保	男性	178	51	28.7%	28	15.7%	99	55.6%
	女性	4,323	207	4.8%	200	4.6%	3,916	90.6%
合計	男性	5,183	1,227	23.7%	843	16.3%	3,113	60.1%
	女性	10,870	693	6.4%	545	5.0%	9,632	88.6%
	計	16,053	1,920	12.0%	1,388	8.6%	12,745	79.4%

3) 健診方法

① 健診項目

・基本的な健診の項目

問診

身体計測 (身長、体重、腹囲、BMI。後期高齢者健診は腹囲なし)

理学的所見 (身体診察)

血圧 (収縮期血圧、拡張期血圧)

血中脂質検査 (中性脂肪、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール)

肝機能検査 (AST、ALT、 γ -GT)

血糖検査 (空腹時血糖、ヘモグロビンA1c。いずれかの項目の実施で可)

尿検査 (尿糖、尿蛋白)

・詳細な健診の項目 (医師の判断による追加項目)

貧血検査 (赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値)

心電図検査

眼底検査

② メタボリックシンドロームの判定基準

・必須条件

腹囲： 男性 85 cm以上、女性 90 cm以上

・以下のうち2つ以上が該当

血糖： 空腹時血糖 110 mg/dl 以上、随時の場合は HbA1c 6.0%以上

脂質： 中性脂肪 150 mg/dl 以上、または HDL-コレステロール 40 mg/dl 未満

血圧： 収縮期 130 mmHg 以上、または 拡張期 85 mmHg 以上

※ 脂質・血圧は、いずれかまたは両方

2. 肝炎ウイルス検査

1) 検査概要

目的： B型・C型肝炎から肝硬変・肝がん等に悪化するのを予防するため
(B型・C型肝炎の早期発見、早期治療)

対象： 当年度 40 歳になる者 (節目検診) 又は過去に受診したことがない者

2) 実施状況

12 市町から委託を受け実施した。

B型肝炎検査は、1,430 人の健診を実施し、前年度に比べ 1,138 人 (44.32%) の減少であった。

C型肝炎検査は、1,431 人の健診を実施し、前年度に比べ 1,139 人 (44.32%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
肝炎ウイルス検査	B型肝炎検査	2,418	2,190	2,346	2,568	1,430
	C型肝炎検査	2,419	2,192	2,346	2,570	1,431

② 陽性率

B型肝炎検査： 陽性者数は 6 人で、陽性率は 0.42% であった。

C型肝炎検査： 感染者数は 3 人で、感染率は 0.21% であった。

3) 検査方法

B型肝炎検査： HB s 抗原検査 (定性)

C型肝炎検査： 問診、HCV 抗体検査 (CLEIA 法)、HCV コア蛋白測定による HCV 抗原検査、HCV-RNA 定量検査

(2) 保健指導

1) 指導概要

目的： 対象者が自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるよう支援する

対象： 健康診断の結果、健康の保持に努める必要がある者
ただし、特定保健指導については医療保険者により、動機づけ支援または積極的支援に階層化された者

2) 実施状況

地域では263人の保健指導を実施し、前年度に比べ2人（0.76%）の減少であった。
職域では1,285人の保健指導を実施し、前年度に比べ217人（14.45%）の減少であった。
全体では前年度に比べ219人（12.39%）の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
地域	134	260	296	265	263
職域	1,057	1,260	1,117	1,502	1,285
計	1,191	1,520	1,413	1,767	1,548

② 年齢階層別実施状況

積極的支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	12	6	13	0	31
	女性	1	2	6	0	9
職域	男性	392	268	26	0	686
	女性	24	32	11	0	67
計		429	308	56	0	793

動機付け支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	7	5	84	36	132
	女性	1	9	53	28	91
職域	男性	236	105	25	1	367
	女性	76	67	22	0	165
計		320	186	184	65	755

その他保健指導		39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
職域	男性	52	1	1	2	56
	女性	44	8	10	3	65
計		96	9	11	5	121

③ セミナー開催

健康づくりセミナー 受講者 191人
更年期セミナー 受講者 45人

3) 指導方法

期間：6ヵ月間
支援：面接 … 個別または8人以下のグループ
通信 … 手紙、メール、電話

(3) 一般健康診断

1) 健診概要

目的： 事業所就業者の健康管理と疾病の早期発見

対象： 事業所就業者

2) 実施状況

91,803 人の健診を実施し、前年度に比べ6,980 人 (8.23%) の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
実施人員	55,734	66,391	64,095	84,823	91,803

3) 健診方法

① 健診項目

労働安全衛生法で定める検査項目を基本としている。

② 健診区分

区分	時期	項目	備考
雇入れ時	雇入れ時	① 既往、業務歴の調査 ② 自他覚症状	労働者の採用時に実施
一般	1年以内に1回	③ 身長、体重、BMI 腹囲、視力、聴力 ④ 胸部X線、喀痰 ⑤ 血圧、尿糖、尿蛋白 ⑥ 貧血検査 ⑦ 肝機能検査 ⑧ 血中脂質検査 ⑨ 血糖検査 ⑩ 心電図検査	④を除き特定業務従事者等は 6ヶ月以内に1回

(4) 特殊健康診断

1) 健診概要

目的： 特定の有害業務に従事する就業者を対象とした健康管理

対象： 有害業務従事者

2) 実施状況

7,794 人の健診を実施し、前年度に比べ 723 人（10.23%）の増加であった。

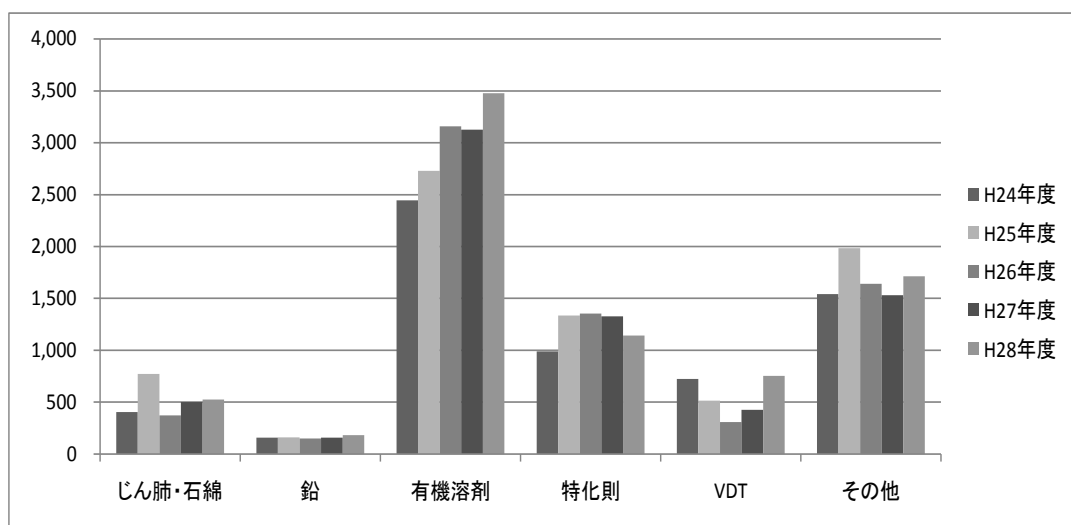
① 項目別実施状況

じん肺・石綿健診は 525 人、鉛健診は 182 人、有機溶剤健診は 3,478 人
特定化学物質健診は 1,143 人、VDT 健診は 753 人、その他健診は 1,713 人であった。

② 項目別受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
じん肺・石綿	404	772	372	502	525
鉛	157	161	151	158	182
有機溶剤	2,444	2,729	3,159	3,126	3,478
特化則	990	1,336	1,353	1,326	1,143
VDT	723	515	309	427	753
その他	1,541	1,983	1,641	1,532	1,713
計	6,259	7,496	6,985	7,071	7,794



3) 健診方法

労働安全衛生法及びじん肺法で定める検査項目を基本としている。

(5) 胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）

1) 検診概要

目的：「結核」の早期発見、まん延防止及び「肺がん」の早期発見、死亡率低下

対象：「結核」は65歳以上の住民、労働安全衛生法による定期健診対象者及び感染症法による対象者、「肺がん」は40歳以上の住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では62,428人の検診を実施し、前年度に比べ4,174人（6.26%）の減少であった。

職域では41,560人の検診を実施し、前年度に比べ5,417人（11.53%）の減少であった。

各種学校では21,164人の検診を実施し、前年度に比べ1,842人（8.01%）の減少であった。

全体では前年度に比べ11,433人（8.37%）の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
地域	76,419	73,702	69,512	66,656	62,482
職域	44,175	43,066	38,459	46,977	41,560
各種学校	23,453	23,793	23,205	23,006	21,164
計	144,047	140,561	131,176	136,639	125,206

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率（各種学校の読影のみ除く）

要精検者数は1,534人で、要精検率は1.23%であった。

④ 精検受診率（各種学校除く）

精検受診者数は1,002人で、精検受診率は65.32%であった。

⑤ がん発見率（各種学校除く）

発見された人数は27人で、発見率は0.02%であった。

内訳は男性16人、女性11人であった。

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
がん発見者数	48	10	24	25	27
がん発見率	0.04 %	0.01 %	0.02 %	0.02 %	0.03 %

3) 検診方法

① 検診項目

結核検診 : 胸部X線間接撮影 (100mm)

肺がん検診 : 問診、胸部X線写真読影 (100mm)、喀痰細胞診 (問診で喫煙指数 600 以上の者または 6 ヶ月以内に血痰のあった者、いずれかに該当する者)

② 判定方法

胸部疾患専門医師 2 名による二重読影を行う。

肺がん検診では読影結果に基づき比較読影を実施する。

③ 判定区分

異常なし : 所見なし (有所見を含む)

経過観察 : 精密検査は不要だが経過を観察する

要 精 検 : 病変の発見及びその疑いがある

別表1 胸部X線検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要医療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～19													
	20～24													
	25～29	1												
	30～34	1												
	35～39	4												
	40～44	354												
	45～49	422	5	3									1	2
	50～54	390	2	0										
	55～59	560	6	4									3	1
	60～64	1,421	29	19		3					1		9	6
	65～69	4,663	90	66		4			1		6		36	19
	70～74	5,205	106	77	3	2			1		3		53	15
	75～79	4,709	105	82	3	5		1	1	1	8		47	16
	80～	4,775	153	124	9	8			3		7		76	21
	計	22,505	496	375	15	22	0	1	6	1	25	0	225	80
女	～19													
	20～24	4												
	25～29	7												
	30～34	11												
	35～39	22	1											
	40～44	1,019	6	4									2	2
	45～49	1,193	11	6									5	1
	50～54	1,473	11	6									5	1
	55～59	2,247	18	12	1								8	3
	60～64	4,014	49	37		1			1				22	13
	65～69	9,230	104	87	2	4				1	2		58	20
	70～74	8,377	112	91	3	3			1	1			62	21
	75～79	6,510	108	86	2	4			2		5		53	20
	80～	5,870	178	145	2	11				2	3		80	47
	計	39,977	598	474	10	23	0	0	4	4	10	0	295	128
合計	62,482	1,094	849	25	45	0	1	10	5	35	0	520	208	

別表2 胸部X線検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要医療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～19	271	3	2							1			1
	20～24	1,951	2	2					1					
	25～29	3,815	9	3										1
	30～34	3,866	12	7						2		1	1	
	35～39	2,547	11	2										2
	40～44	2,574	16	8						3				3
	45～49	2,227	16	3										2
	50～54	1,719	22	5										2
	55～59	1,395	21	11						3			1	
	60～64	1,354	33	11						2		1	2	
	65～69	857	32	11						2			2	
	70～74	279	13	3						1				
	75～79	148	9	3										1
	80～	206	23	8						3	1			
	不明	648	25											
計	23,857	247	79	0	0	0	0	1	0	17	1	2	18	
女	～19	109	0											
	20～24	1,632	3	3							1			1
	25～29	2,887	9	6						1				2
	30～34	2,191	6	2										
	35～39	1,686	6	2		1								1
	40～44	1,889	10	4						2				1
	45～49	1,946	17	7						1				2
	50～54	1,539	21	8						4				
	55～59	1,322	13	7						3		1		
	60～64	987	26	9						4				1
	65～69	457	10	2						1				
	70～74	181	2											
	75～79	124	3	2						2				1
	80～	735	67	22	1	2				3	1	1	3	
	不明	18	0	0										
計	17,703	193	74	1	3	0	0	0	0	22	1	2	12	
合計	41,560	440	153	1	3	0	0	1	0	39	2	4	30	

別表3 胸部X線検診年齢階層別実施状況（各種学校）

区分	受診者数	一次検査結果内訳			
		異常なし	経過観察	要精検	撮影のみ
高：1学年	7,045	7,032		13	
高：その他	309	296		2	
養護学校	234	234			
その他学校	13,155	11,872	2	35	1,241
計	20,743	19,434	2	50	1,241

別表 4 喀痰細胞診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍細胞疑い	悪性腫瘍細胞あり
男	～39						
	40～44	13		13			
	45～49	23		23			
	50～54	22		22			
	55～59	45		45			
	60～64	116	2	114			
	65～69	347		345	2		
	70～74	407	1	402	4		
	75～79	305		305			
	80～	263	2	258	3		
	不明						
	計	1,541	5	1,527	9	0	0
女	～39						
	40～44	10		10			
	45～49	7		7			
	50～54	4		4			
	55～59	14		14			
	60～64	13		13			
	65～69	43		43			
	70～74	49		48	1		
	75～79	38		36	2		
	80～	23		22	1		
	不明						
	計	201		197	4	0	0
合計		1,742		1,724	13	0	0

別表 5 喀痰細胞診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍細胞疑い	悪性腫瘍細胞あり
男	～39	6		6			
	40～44	6		6			
	45～49	6		6			
	50～54	2		2			
	55～59	6		6			
	60～64	9	1	8			
	65～69	1		1			
	70～74	1		1			
	75～79						
	80～						
	不明						
	計	37	1	36	0	0	0
女	～39						
	40～44	2		2			
	45～49						
	50～54						
	55～59	1		1			
	60～64	2		2			
	65～69						
	70～74	1		1			
	75～79						
	80～						
	不明						
	計	6	0	6	0	0	0
合計		43	1	42	0	0	0

(6) 胃がん検診

1) 検診概要

目的： 胃がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 13,833 人の検診を実施し、前年度に比べ 2,619 人（15.92%）の減少であった。

職域では 7,257 人の検診を実施し、前年度に比べ 158 人（2.13%）の減少であった。

全体では前年度に比べ 2,777 人（11.64%）の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
地域	17,488	16,604	15,548	16,452	13,833
職域	6,593	6,967	7,050	7,415	7,257
計	24,081	23,571	22,598	23,867	21,090

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 1,603 人で、要精検率は 7.60%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は 1,227 人で、精検受診率は 76.54%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 19 人で、発見率は 0.09%であった。

内訳は男性 11 人、女性 8 人であった。

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
がん発見者数	28	28	14	30	19
がん発見率	0.12 %	0.12 %	0.06 %	0.13 %	0.09 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診、胃部X線検査（日本消化器集団検診学会間接8枚撮影法）

② 判定方法

専門医師による二重読影（ダブルチェック）

③ 判定区分

異常なし： 所見なし（放置可を含む）

経過観察： 精密検査は不要だが経過を観察する

要 精 検： 疑わしい所見がみられるため精密検査の必要がある

別表1 胃がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳											
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明
男	～39	2	1													
	40～44	183	9	5	3							2				
	45～49	170	10	7	1				1			5				
	50～54	154	5	3								1			2	
	55～59	224	20	17	2				4	1	1	9				
	60～64	552	62	45	1				1	1	7	31		1	2	1
	65～69	1,538	174	137	9	3			7	19	21	66	2	1	9	
	70～74	1,334	139	117	8	4			1	17	12	60	2	1	12	
	75～79	925	84	68	5				2	17	5	32		2	5	
	80～	979	103	82	3	3				5	15	6	43			6
計	6,061	607	481	32	10	0	0	21	70	52	249	4	5	36	2	
女	～39	2														
	40～44	393	16	10	1					3		6				
	45～49	311	9	8						2		5	1			
	50～54	392	14	12		1				1	1	8			1	
	55～59	563	32	28	2				2	5	1	15			3	
	60～64	993	68	59	1				2	7	1	46			2	
	65～69	1,875	119	103	5	2			3	26	6	51			10	
	70～74	1,454	105	91	12	2			1	14	4	50			8	
	75～79	1,034	82	70	6	1			2	15	1	34		2	9	
	80～	755	53	43	7	1	2		2	6	1	19			5	
計	7,772	498	424	34	7	2	0	12	79	15	234	1	2	38	0	
合計	13,833	1,105	905	66	17	2	0	33	149	67	483	5	7	74	2	

別表2 胃がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳											
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明
男	～39	835	29	18	2				1	3		7			4	1
	40～44	979	56	30	3					4		19		1	3	
	45～49	920	69	43	6				1	6	2	24			4	
	50～54	747	70	44	3					4	6	23		2	5	1
	55～59	628	67	40	3					6	6	18		2	5	
	60～64	491	61	37	1				1	4	7	21		1	2	
	65～69	236	28	18		1					2	13			2	
	70～74	32	4	4						1		2			1	
	75～79	9	3	3								3				
	80～															
	不明															
	計	4,877	387	237	18	1	0	0	3	28	23	130	0	6	26	2
女	～39	355	9	7						1		6				
	40～44	475	22	16	3					4		7			2	
	45～49	523	17	11	1				1	2	1	4		1	1	
	50～54	382	23	17	3				2	3	1	6			2	
	55～59	327	20	18	1	1				4		9			3	
	60～64	234	12	10						1	3	6				
	65～69	71	7	6	1							4			1	
	70～74	12	1													
	75～79	1														
	80～															
	不明															
	計	2,380	111	85	9	1	0	0	3	15	5	42	0	1	9	0
合計	7,257	498	322	27	2	0	0	6	43	28	172	0	7	35	2	

別表3 胃がん検診年齢階層別実施状況（合計）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳											
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明
男	～39	837	30	18	2	0	0	0	1	3	0	7	0	0	4	1
	40～44	1,162	65	35	6	0	0	0	0	4	0	21	0	1	3	0
	45～49	1,090	79	50	7	0	0	0	2	6	2	29	0	0	4	0
	50～54	901	75	47	3	0	0	0	0	4	6	24	0	2	7	1
	55～59	852	87	57	5	0	0	0	4	7	7	27	0	2	5	0
	60～64	1,043	123	82	2	0	0	0	2	5	14	52	0	2	4	1
	65～69	1,774	202	155	9	4	0	0	7	19	23	79	2	1	11	0
	70～74	1,366	143	121	8	4	0	0	1	18	12	62	2	1	13	0
	75～79	934	87	71	5	0	0	0	2	17	5	35	0	2	5	0
	80～	979	103	82	3	3	0	0	5	15	6	43	0	0	6	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	10,938	994	718	50	11	0	0	24	98	75	379	4	11	62	4
女	～39	357	9	7	0	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0	0
	40～44	868	38	26	4	0	0	0	0	7	0	13	0	0	2	0
	45～49	834	26	19	1	0	0	0	1	4	1	9	1	1	1	0
	50～54	774	37	29	3	1	0	0	2	4	2	14	0	0	3	0
	55～59	890	52	46	3	1	0	0	2	9	1	24	0	0	6	0
	60～64	1,227	80	69	1	0	0	0	2	8	4	52	0	0	2	0
	65～69	1,946	126	109	6	2	0	0	3	26	6	55	0	0	11	0
	70～74	1,466	106	91	12	2	0	0	1	14	4	50	0	0	8	0
	75～79	1,035	82	70	6	1	0	0	2	15	1	34	0	2	9	0
	80～	755	53	43	7	1	2	0	2	6	1	19	0	0	5	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	10,152	609	509	43	8	2	0	15	94	20	276	1	3	47	0
合計	21,090	1,603	1,227	93	19	2	0	39	192	95	655	5	14	109	4	

(7) 子宮がん検診

1) 検診概要

目的： 子宮頸がんの早期発見

対象： 原則として 20 歳以上の女性で地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 24,264 人の検診を実施し、前年度に比べ 687 人 (2.75%) の減少であった。
職域では 537 人の検診を実施し、前年度に比べ 812 人 (58.63%) の減少であった。
全体では前年度に比べ 1,499 人 (5.69%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
地域	30,524	26,465	24,658	24,951	24,264
職域	691	1,342	1,279	1,385	573
計	31,215	27,807	25,937	26,336	24,837

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 138 人で、要精検率は 0.56%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は 95 人で、精検受診率は 68.84%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 2 人で、発見率は 0.01%であった。

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
がん発見者数	6	12	5	3	2
がん発見率	0.02 %	0.04 %	0.02 %	0.01 %	0.01 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診（既往歴、家族歴等）、医師による視診・内診及び子宮頸部の細胞採取

② 判定方法

細胞診の判定は日本臨床細胞学会認定の細胞検査士がスクリーニングして、ASC-US 以上のものについて細胞診専門医が判定を行う。

③ 判定区分

細胞診判定	結果	推定される 病理診断	従来のクラス分類
NILM	陰性	非腫瘍性所見 炎症	I、II
ASC-US	意義不明な 異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	II－IIIa
ASC-H	HSILを除外できない 異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	IIIa、IIIb
LSIL	軽度扁平 上皮内病変	HPV感染 軽度異形成	IIIa
HSIL	高度扁平上皮内病変	中等度異形成	IIIa
		高度異形成	IIIb
		上皮内癌	IV
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌	V
AGC	異型腺細胞	腺異型または 腺癌疑い	III
AIS	上皮内腺癌	上皮内腺癌	IV
Adenoca.	腺癌	腺癌	V
other malig.	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	V

別表１ 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19	0	0	0	0	0	0	0
20～24	200	10	3	1	0	0	2
25～29	412	7	2	0	0	0	2
30～34	1,121	17	13	5	0	0	8
35～39	1,455	22	18	5	0	0	13
40～44	1,998	22	15	2	1	0	12
45～49	1,599	22	17	9	1	0	7
50～54	1,353	7	3	0	0	0	3
55～59	1,835	4	3	1	0	0	2
60～64	2,634	4	4	0	0	0	4
65～69	4,651	4	2	0	0	0	2
70～74	3,468	4	4	3	0	0	1
75～79	2,334	1	0	0	0	0	0
80～	1,204	3	3	0	0	0	3
計	24,264	127	87	26	2	0	59

別表２ 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19	0	0	0	0	0	0	0
20～24	5	0	0	0	0	0	0
25～29	19	1	1	0	0	0	1
30～34	17	0	0	0	0	0	0
35～39	44	0	0	0	0	0	0
40～44	94	1	1	0	0	0	1
45～49	124	3	2	2	0	0	0
50～54	132	4	2	0	0	0	2
55～59	75	2	2	0	0	0	2
60～64	43	0	0	0	0	0	0
65～69	13	0	0	0	0	0	0
70～74	4	0	0	0	0	0	0
75～79	2	0	0	0	0	0	0
80～	1	0	0	0	0	0	0
計	573	11	8	2	0	0	6

別表３ 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19	0	0	0	0	0	0	0
20～24	205	10	3	1	0	0	2
25～29	431	8	3	0	0	0	3
30～34	1,138	17	13	5	0	0	8
35～39	1,499	22	18	5	0	0	13
40～44	2,092	23	16	2	1	0	13
45～49	1,723	25	19	11	1	0	7
50～54	1,485	11	5	0	0	0	5
55～59	1,910	6	5	1	0	0	4
60～64	2,677	4	4	0	0	0	4
65～69	4,664	4	2	0	0	0	2
70～74	3,472	4	4	3	0	0	1
75～79	2,336	1	0	0	0	0	0
80～	1,205	3	3	0	0	0	3
計	24,837	138	95	28	2	0	65

(8) 乳がん検診

1) 検診概要

目的： 乳がんの早期発見

対象： 岡山県の指針で 30 歳代は視触診単独検診を毎年実施、40 歳以上はマンモグラフィ併用検診を毎年実施

原則、地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 19,055 人の検診を実施し、前年度に比べ 648 人（3.52%）の増加であった。

職域では 907 人の検診を実施し、前年度に比べ 267 人（22.74%）の減少であった。

全体では前年度に比べ 381 人（1.95%）の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
地域	16,130	16,367	17,178	18,407	19,055
職域	970	999	1,092	1,174	907
計	17,100	17,366	18,270	19,581	19,962

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 831 人で、要精検率は 4.16%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は 591 人で、精検受診率は 71.12%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 30 人で、発見率は 0.15%であった。

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
がん発見者数	13	24	24	34	30
がん発見率	0.08 %	0.14 %	0.13 %	0.17 %	0.15 %

3) 検診方法

① 検診項目

- ・問診、視触診（専門医師による立位・座位・仰臥位・視触診法により行う）
- ・問診、視触診、マンモグラフィ（40 歳代のみ、内外斜位一方向と頭尾方向を加えた 2 方向）

② 判定方法

視触診 : 専門医師による

マンモグラフィ : マンモグラフィ精度管理中央委員会の認定読影医師による二重読影

③ 判定区分

・視触診

異常なし : 今回の検診で異常は認められない者

経過観察 : 精密検査は不要だが経過を観察する

要 精 検 : 今回の検診で精密検査の必要があると診断された者

・マンモ併用

異常なし : 今回の検診で異常は認められない者（有所見を含む）

要 精 検 : 疑わしい所見が見られるので精密検査が必要と診断された者

別表1 乳がん年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	80	2	0	0	0	0	0	0	0	0
30～34	258	15	2	0	0	0	0	1	1	0
35～39	374	15	2	2	0	0	0	0	0	0
40～44	1,905	131	97	36	1	0	18	11	30	1
45～49	1,521	99	67	27	1	0	10	5	22	2
50～54	1,434	73	59	25	3	0	10	3	16	2
55～59	1,681	85	60	20	6	0	11	4	17	2
60～64	2,371	72	51	31	3	0	4	2	8	3
65～69	3,886	144	93	48	9	0	7	9	19	1
70～74	2,753	99	69	37	3	0	6	4	15	4
75～79	1,845	50	36	21	3	0	4	3	5	0
80～	947	26	11	7	1	0	1	1	0	1
不明	0	0	29	16	0	0	3	3	7	0
計	19,055	811	576	270	30	0	74	46	140	16

別表2 乳がん年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30～34	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35～39	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	177	7	4	1	0	0	0	2	1	0
45～49	188	5	4	1	0	0	1	1	1	0
50～54	166	5	5	1	0	0	1	0	3	0
55～59	100	1	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69	51	1	1	1	0	0	0	0	0	0
70～74	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79	8	1	1	1	0	0	0	0	0	0
80～	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	907	20	15	5	0	0	2	3	5	0

別表3 乳がん年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	103	2	0	0	0	0	0	0	0	0
30～34	289	15	2	0	0	0	0	1	1	0
35～39	446	15	2	2	0	0	0	0	0	0
40～44	2,082	138	101	37	1	0	18	13	31	1
45～49	1,709	104	71	28	1	0	11	6	23	2
50～54	1,600	78	64	26	3	0	11	3	19	2
55～59	1,781	86	60	20	6	0	11	4	17	2
60～64	2,430	72	51	31	3	0	4	2	8	3
65～69	3,937	145	94	49	9	0	7	9	19	1
70～74	2,779	99	69	37	3	0	6	4	15	4
75～79	1,853	51	37	22	3	0	4	3	5	0
80～	953	26	11	7	1	0	1	1	0	1
不明	0	0	29	16	0	0	3	3	7	0
計	19,962	831	591	275	30	0	76	49	145	16

(9) 大腸がん検診

1) 検診概要

目的： 大腸がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 21,294 人の検診を実施し、前年度に比べ 1,310 人 (5.80%) の減少であった。

職域では 6,566 人の検診を実施し、前年度に比べ 631 人 (8.77%) の減少であった。

全体では前年度に比べ 1,941 人 (6.51%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)					
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
地域	20,310	19,946	20,259	22,604	21,294
職域	6,638	6,501	6,360	7,197	6,566
計	26,948	26,447	26,619	29,801	27,860

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 2,066 人で、要精検率は 7.42%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は 1,441 人で、精検受診率は 69.75%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 33 人で、0.12%であった。

内訳は男性 19 人、女性 14 人であった。

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
がん発見者数	33	25	25	39	33
がん発見率	0.12 %	0.09 %	0.09 %	0.13 %	0.12 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診、検査（免疫学的便ヘモグロビン検査、便採取は2日法）

② 判定区分

異常なし：免疫学的便潜血反応検査において2日とも陰性

要精検：免疫学的便潜血反応検査において1日あるいは2日とも陽性

別表 1 大腸がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	大腸 ポリープ	憩室	痔	その他 疾病	不明
男	～39	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40～44	225	9	5	3	0	0	0	0	0	2	0	0
	45～49	236	13	7	1	0	0	0	5	1	0	0	0
	50～54	232	14	10	3	1	0	0	4	0	2	0	0
	55～59	330	23	15	1	0	0	0	10	1	2	0	1
	60～64	714	63	47	8	0	0	0	28	6	4	1	0
	65～69	1,870	153	105	14	4	0	0	64	13	7	3	0
	70～74	1,585	143	116	12	3	0	0	74	14	11	2	0
	75～79	1,337	151	113	13	5	0	0	71	8	11	5	0
	80～	1,533	197	144	26	6	2	0	74	16	17	2	1
	計	8,063	766	562	81	19	2	0	330	59	56	13	2
女	～39	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40～44	714	42	25	13	0	0	0	6	1	5	0	0
	45～49	615	42	29	12	2	0	0	7	1	6	1	0
	50～54	687	40	26	9	1	0	0	11	1	3	1	0
	55～59	947	58	43	16	0	0	0	14	6	6	1	0
	60～64	1,582	96	68	23	1	0	0	25	6	10	3	0
	65～69	2,881	176	149	22	2	0	0	72	20	28	5	0
	70～74	2,245	147	122	27	3	0	0	58	12	16	6	0
	75～79	1,773	155	119	24	2	0	0	48	16	23	6	0
	80～	1,786	181	115	20	3	0	0	38	21	26	7	0
	計	13,231	937	696	166	14	0	0	279	84	123	30	0
合計		21,294	1,703	1,258	247	33	2	0	609	143	179	43	2

別表 2 大腸がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	大腸 ポリープ	憩室	痔	その他 疾病	不明
男	～39	791	36	18	11	0	0	0	4	1	1	1	0
	40～44	853	35	17	8	0	0	0	6	1	2	0	0
	45～49	810	37	18	2	0	0	0	11	1	1	2	0
	50～54	628	39	18	0	0	0	0	15	0	1	2	0
	55～59	480	22	8	3	0	0	0	5	0	0	0	0
	60～64	392	32	13	2	0	0	0	10	1	0	0	0
	65～69	205	24	10	1	0	0	0	7	1	1	0	0
	70～74	65	5	4	1	0	0	0	2	1	0	0	0
	75～79	41	3	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	80～	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	4,268	233	108	28	0	0	0	61	7	6	5	0
女	～39	457	37	21	11	0	0	0	3	0	5	2	0
	40～44	405	21	11	6	0	0	0	3	0	1	1	0
	45～49	395	17	13	4	0	0	0	4	3	1	1	0
	50～54	286	9	3	0	0	0	0	2	0	1	0	0
	55～59	266	13	6	2	0	0	0	2	0	2	0	0
	60～64	260	15	11	3	0	0	0	5	1	2	0	0
	65～69	121	6	3	1	0	0	0	2	0	0	0	0
	70～74	61	6	6	2	0	0	0	3	0	1	0	0
	75～79	31	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	80～	16	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2,298	130	75	30	0	0	0	24	4	13	4	0
合計		6,566	363	183	58	0	0	0	85	11	19	9	0

別表 3 大腸がん検診年齢階層別実施状況（合計）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	大腸 ポリープ	憩室	痔	その他 疾病	不明
男	～39	792	36	18	11	0	0	0	4	1	1	1	0
	40～44	1,078	44	22	11	0	0	0	6	1	4	0	0
	45～49	1,046	50	25	3	0	0	0	16	2	1	2	0
	50～54	860	53	28	3	1	0	0	19	0	3	2	0
	55～59	810	45	23	4	0	0	0	15	1	2	0	1
	60～64	1,106	95	60	10	0	0	0	38	7	4	1	0
	65～69	2,075	177	115	15	4	0	0	71	14	8	3	0
	70～74	1,650	148	120	13	3	0	0	76	15	11	2	0
	75～79	1,378	154	115	13	5	0	0	72	9	11	5	0
	80～	1,536	197	144	26	6	2	0	74	16	17	2	1
	不明	8,065	766	562	81	19	2	0	330	59	56	13	2
	計	12,331	999	670	109	19	2	0	391	66	62	18	2
女	～39	458	37	21	11	0	0	0	3	0	5	2	0
	40～44	1,119	63	36	19	0	0	0	9	1	6	1	0
	45～49	1,010	59	42	16	2	0	0	11	4	7	2	0
	50～54	973	49	29	9	1	0	0	13	1	4	1	0
	55～59	1,213	71	49	18	0	0	0	16	6	8	1	0
	60～64	1,842	111	79	26	1	0	0	30	7	12	3	0
	65～69	3,002	182	152	23	2	0	0	74	20	28	5	0
	70～74	2,306	153	128	29	3	0	0	61	12	17	6	0
	75～79	1,804	157	119	24	2	0	0	48	16	23	6	0
	80～	1,802	185	116	21	3	0	0	38	21	26	7	0
	不明	13,231	937	696	166	14	0	0	279	84	123	30	0
	計	15,529	1,067	771	196	14	0	0	303	88	136	34	0
合計		27,860	2,066	1,441	305	33	2	0	694	154	198	52	2

(10) 前立腺がん検診

1) 検診概要

目的： 前立腺がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 6,167 人の検診を実施し、前年度に比べ 349 人 (5.36%) の減少であった。
職域では 377 人の検診を実施し、前年度に比べ 137 人 (26.65%) の減少であった。
全体では前年度に比べ 486 人 (6.91%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
地域	6,224	6,213	6,203	6,516	6,167
職域	278	311	370	514	377
計	6,502	6,524	6,573	7,030	6,544

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 392 人で、要精検率は 6.00%であった。

④ 検受診率

精検受診者数は 261 人で、精検受診率は 66.58%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 29 人で、発見率は 0.44%であった。

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
がん発見者数	23	21	26	40	29
がん発見率	0.35 %	0.32 %	0.40 %	0.57 %	0.44 %

3) 検診方法

① 検診項目： 問診、前立腺特異抗原検査 (CLEIA 法)

② 判定区分： PSA の基準値を 4.0ng/ml とし、4.0 以下を異常なし、4.1 以上を要精検と判定

別表 1 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	84	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54	192	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0
55～59	236	6	4	1	0	1	0	1	1	0	0
60～64	602	24	17	2	2	1	0	11	0	0	1
65～69	1,734	96	56	12	11	6	0	23	1	0	3
70～74	1,446	92	68	11	8	9	0	34	0	1	4
75～79	982	79	50	4	4	10	0	24	2	0	6
80～	823	82	59	5	4	9	0	32	2	0	7
計	6,167	381	255	35	29	36	0	126	6	1	21

別表 2 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	41	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
50～54	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59	88	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
60～64	68	5	2	0	0	0	0	2	0	0	0
65～69	35	3	2	0	0	1	0	1	0	0	0
70～74	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	377	11	6	1	0	1	0	4	0	0	0

別表 3 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	117	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	109	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
50～54	286	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0
55～59	324	8	5	2	0	1	0	1	1	0	0
60～64	670	29	19	2	2	1	0	13	0	0	1
65～69	1,769	99	58	12	11	7	0	24	1	0	3
70～74	1,448	92	68	11	8	9	0	34	0	1	4
75～79	983	79	50	4	4	10	0	24	2	0	6
80～	823	82	59	5	4	9	0	32	2	0	7
計	6,544	392	261	36	29	37	0	130	6	1	21

(1 1) 骨粗鬆症検診

1) 検診概要

目的： 骨粗鬆症の予防

対象： 地域住民、事業所就業者、学生

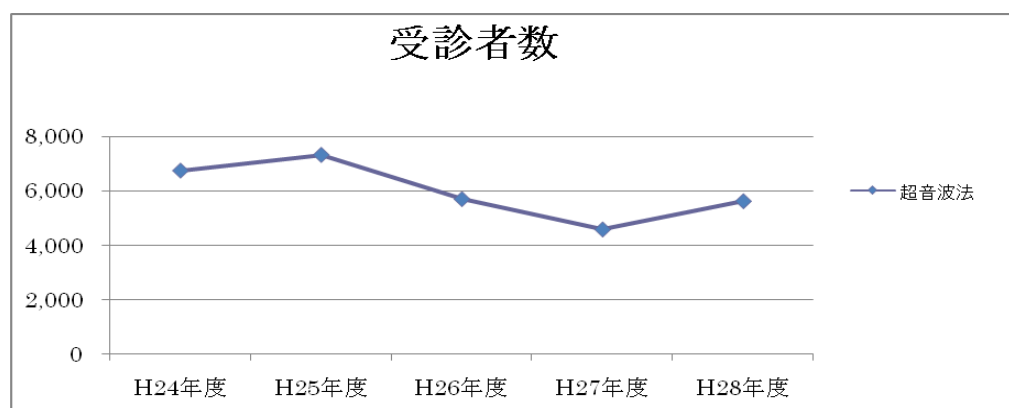
2) 実施状況

5,613 人の検診を実施し、前年度に比べ 1,046 人（22.90%）の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
超音波法	6,746	7,328	5,691	4,567	5,613



3) 検診方法

① 検診項目

- ・問診
- ・超音波法 : 足のかかると超音波をあてて、音響的骨評価値により骨密度を測定

② 判定方法

性別、年齢別に下記判定基準値（YAM 値）と照合し医師による最終判定を行う

4) 判定基準値（成人）

性別	年齢	YAM値に対する割合		
		① 異常なし	② 要指導	③ 要精検
女性	59歳以下	90%以上	90%未満 80%以上	80%未満
	60歳以上	90%以上	90%未満 70%以上	70%未満
男性	全年齢	90%以上	90%未満 75%以上	75%未満

(1 2) 学校保健検査

1. 尿検査

1) 検査概要

目的： 腎臓病・糖尿病等早期発見

対象： 学校保健安全法に基づく幼児・児童・生徒等

2) 実施状況

156,092 人の検査を実施し、前年度に比べ2,479 人（1.56%）の減少であった。

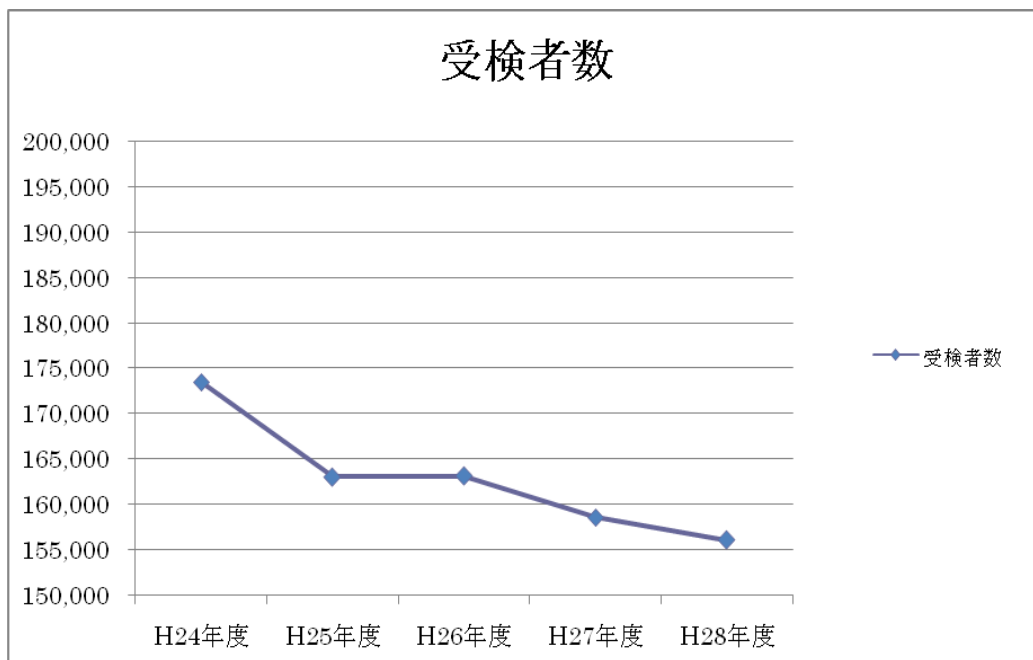
第1 回検尿の陽性者は5,178 人で、陽性率は3.32%であった。

第2 回検尿の陽性者は1,193 人で、陽性率は27.97%であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
受検者数	173,465	163,021	163,082	158,571	156,092



② 検査実績

対象	性別	第1回検尿						第2回検尿					
		受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数			受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数		
					糖	蛋白	潜血				糖	蛋白	潜血
幼稚園 保育園	男	8,092	58	0.72	1	35	25	44	11	25.00	1	8	6
	女	7,745	121	1.56	7	57	57	89	24	26.97	0	13	14
	計	15,837	179	1.13	8	92	82	133	35	26.32	1	21	20
小学校	男	40,461	394	0.97	32	259	120	324	88	27.16	2	64	40
	女	38,085	962	2.53	33	575	389	804	220	27.36	1	173	88
	計	78,546	1,356	1.73	65	834	509	1,128	308	27.30	3	237	128
中学校	男	19,680	1,183	6.01	28	1,081	93	1,056	308	29.17	5	284	41
	女	18,795	1,263	6.72	34	641	667	1,089	282	25.90	3	246	82
	計	38,475	2,446	6.36	62	1,722	760	2,145	590	27.51	8	530	123
高等学校	男	8,115	505	6.22	25	460	33	428	121	28.27	5	108	13
	女	8,675	447	5.15	14	287	178	345	111	32.17	1	104	27
	計	16,790	952	5.67	39	747	211	773	232	30.01	6	212	40
その他の 学校	男	1,432	40	2.79	9	29	3	13	2	15.38	0	2	0
	女	3,191	79	2.48	3	53	26	35	11	31.43	0	11	0
	計	4,623	119	2.57	12	82	29	48	13	27.08	0	13	0
特殊学校	男	1,197	73	6.10	7	60	10	29	13	44.83	2	12	3
	女	624	53	8.49	2	32	26	10	2	20.00	0	2	0
	計	1,821	126	6.92	9	92	36	39	15	38.46	2	14	3
合計	男	78,977	2,253	2.85	102	1,924	284	1,894	543	28.67	15	478	103
	女	77,115	2,925	3.79	93	1,645	1,343	2,372	650	27.40	5	549	211
	計	156,092	5,178	3.32	195	3,569	1,627	4,266	1,193	27.97	20	1,027	314

3) 検査方法

第1回検尿：蛋白、潜血、糖を、尿自動分析装置（US3300）を用いて定性検査を実施する。
蛋白（±）以上の尿に対しては、スルホサリチル酸法で確認する。

第2回検尿：第1回検尿の陽性者に対し第1回検尿と同様の検査項目・検査方法を行う。
蛋白・潜血陽性者に対しては沈渣鏡検を行う。

2. 寄生虫検査

1) 検査概要

目的： 学校保健安全法に基づく 寄生虫の保卵者の発見

対象： 幼児、児童、生徒等

2) 実施状況

糞便検査は学校保健安全法の改正が施行され、寄生虫検査が必須項目から外れた影響のため、33 人の検査を実施し、前年度に比べ 3,278 人 (99.00%) の大幅な減少であった。蟯虫検査も同上の理由のため、2,142 人の検査を実施し、前年度に比べ 48,020 人 (95.73%) の大幅な減少であった。

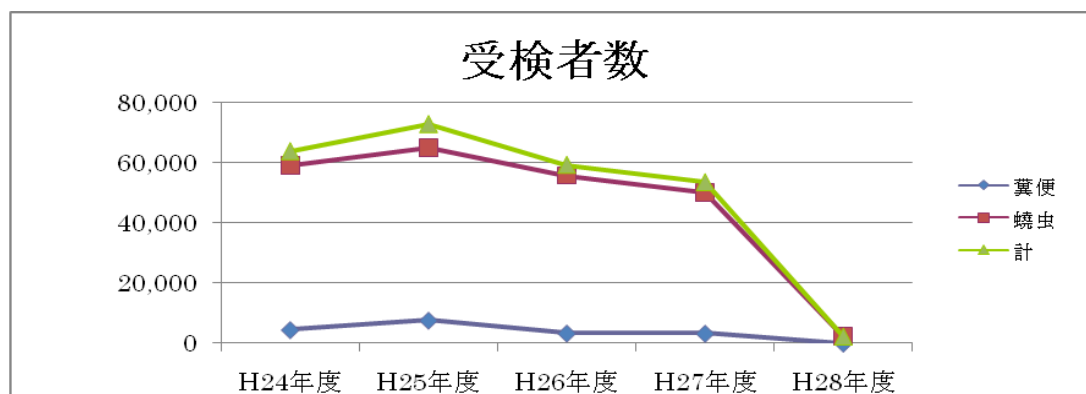
糞便検査の保卵者は 0 人で、陽性率は 0.00% であった。

蟯虫検査の保卵者は 0 人で、陽性率は 0.00% であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
糞便	4,511	7,653	3,368	3,311	33
蟯虫	59,286	65,165	55,890	50,162	2,142
計	63,797	72,818	59,258	53,473	2,175



② 検査実績

区分	糞便			蟯虫		
	検査者数	保卵者数	陽性率(%)	検査者数	保卵者数	陽性率(%)
保育園 幼児クラブ	0	0	0.00	1,035	0	0.00
幼稚園	0	0	0.00	659	0	0.00
小学校	0	0	0.00	411	0	0.00
特殊学校	33	0	0.00	37	0	0.00
計	33	0	0.00	2,142	0	0.00

3) 検査方法

- ・セロファンテープ肛囲検査法： 蟯虫卵検査方法はセロテープ法を用いた採卵を行う。
(2回法) 夜間に肛門周囲に産卵された蟯虫卵を早朝セロテープの粘着部に付着させ、これを 2 日間 (2 回) 行い、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。
- ・セロファン厚層塗抹法 : 便をマッチの頭程度スライドに乗せ、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。

3. 貧血検査

1) 検査概要

目的： 貧血をはじめとする血液学的疾病の早期発見

対象： 児童、生徒等

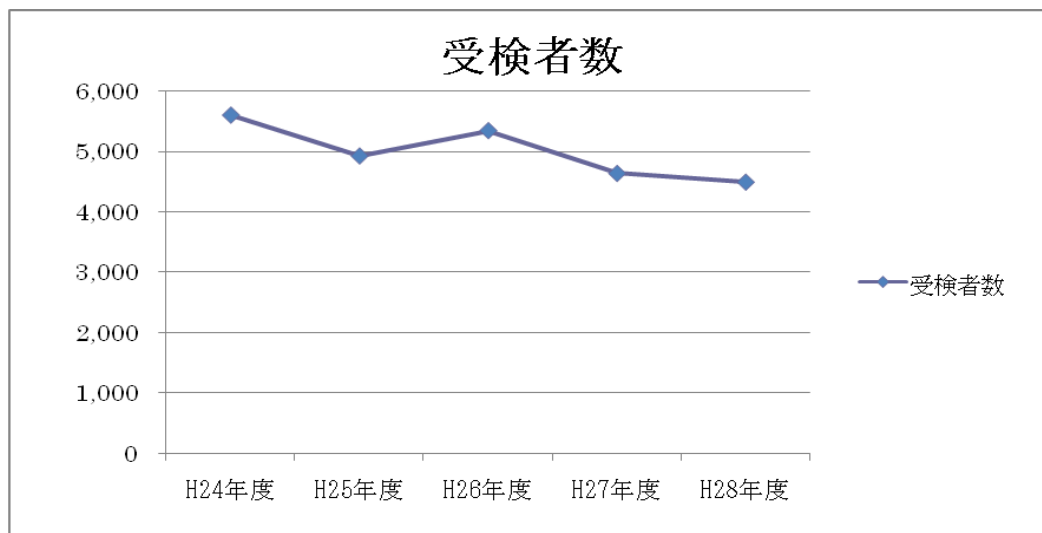
2) 実施状況

4,494 人の検査を実施し、前年度に比べ 144 人（3.11%）の減少であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
受検者数	5,601	4,927	5,344	4,638	4,494



② 検査実績

区分	性別	RBC (赤血球数)		Hb (ヘモグロビン)		Ht (ヘマトクリット)	
		受診数	基準外	受診数	基準外	受診数	基準外
中学校	男	120	8	120	12	120	15
	女	187	22	187	8	187	12
高校	男	1,639	368	1,639	74	1,639	34
	女	2,548	316	2,548	203	2,548	195
計		4,494	714	4,494	297	4,494	256

3) 検査方法

静脈より採血し、全自動血球計数装置 (XE2100) で RBC (赤血球数)、Hb (ヘモグロビン)、Ht (ヘマトクリット) の値を測定する。

4. 心臓検診

1) 検診概要

目的： 心疾患児の発見とともに重症度を判定し、突然死等の発生の予防

対象： 学校保健安全法に基づく、小学校1年生、小学校4年生、中学校1年生、
高等学校1年生及びその他の学年

2) 実施状況

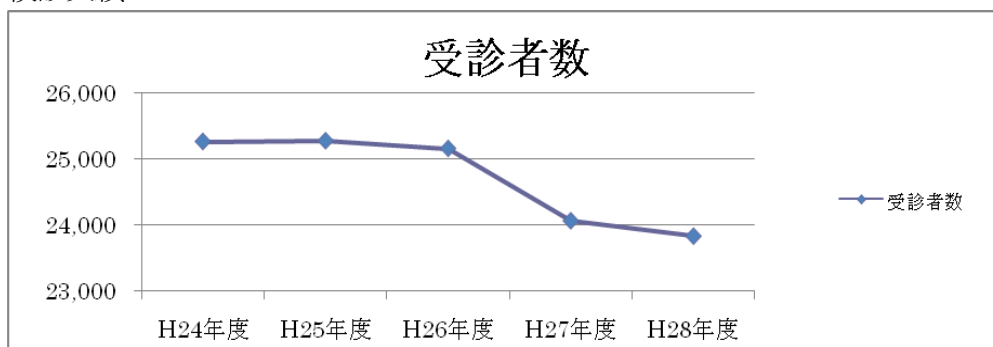
23,829 人の検診を実施し、前年度に比べ 233 人（0.97%）の減少であった。
有所見率は 2.74%であった（医師会審査判読分は除く）。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
受診者数	25,261	25,272	25,156	24,062	23,829

② 検診実績



区分	受診者数	判 定		
		正常	有所見	有所見率
小学校	5,959	5,847	112	1.88
中学校	5,949	5,798	151	2.54
高校、大学	7,263	7,043	220	3.03
特殊学校	456	402	54	11.84
計	19,627	19,090	537	2.74

※ 医師会審査判読分（4,281 人）を除く

3) 検診方法

心臓検診票と省略 4 誘導心電図+2 点心音図を実施。一部の学校では標準 12 誘導心電図を実施。

県医師会解析センターで自動解析（一次判読）後、一次有所見者と検診票有点者をふるい分けし、市医師会心臓判定委員会、財団専門医師等で二次判読を実施し最終判定を行う。

5. 小児生活習慣病予防健診

1) 健診概要

目的：生活習慣病及び生活習慣病予備軍の発見

対象：小学校4年生と中学校1年生の生徒（1市のみ実施）

2) 実施状況：

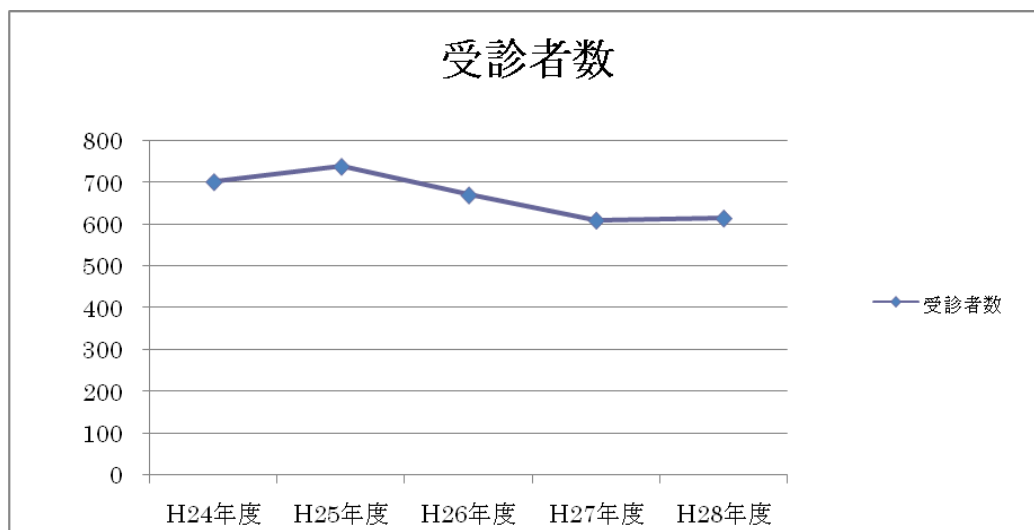
614人の健診を実施し、前年度に比べ5人（0.82%）の増加であった。

また、判定結果で何らかの管理を要する生徒は163人（26.55%）であった。

① 受診者数の年次推移

（人）

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
受診者数	702	739	670	609	614



② 健診実績

区分			受診者数	管理区分									
				要医学的管理（Ⅰ）		要経過観察（Ⅱ）		要指導（Ⅲ）		管理不要（Ⅳ）		正常（Ⅴ）	
				人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
小学校	4年生	男	154	4	2.6	10	6.5	29	18.8	74	48.1	37	24.0
		女	140	7	5.0	14	10.0	31	22.1	67	47.9	21	15.0
		計	294	11	3.7	24	8.2	60	20.4	141	48.0	58	19.7
中学校	1年生	男	175	4	2.3	7	4.0	20	11.4	86	49.1	58	33.1
		女	145	4	2.8	8	5.5	25	17.2	77	53.1	31	21.4
		計	320	8	2.5	15	4.7	45	14.1	163	50.9	89	27.8
合計		男	329	8	2.4	17	5.2	49	14.9	160	48.6	95	28.9
		女	285	11	3.9	22	7.7	56	19.6	144	50.5	52	18.2
		計	614	19	3.1	39	6.4	105	17.1	304	49.5	147	23.9

3) 健診方法

① 健診項目

小児生活習慣病予防健診調査票（家族歴、糖尿病の有無）、身体計測（肥満度の計算）、血中脂質検査、血圧測定

② 判定区分

健診各項目を小児生活習慣病基準値からの乖離度合で判定し、同時にその判定の組合せで5段階の総合判定を行う。

総合判定には専門医師が関与するとともに総合判定のランクに対応して指導（管理）区分を決定する。

管理区分	内容
I	要医学的管理
II	要経過観察
III	要指導
IV	管理不要
N	正常

(13) 先天性代謝異常等検査

1) 検査概要

目的：先天性代謝異常症等の早期発見

対象：新生児（原則として保護者の検査希望）

2) 実施状況

平成11年度より岡山県からの委託事業として実施しているが、平成18年度より高知県、平成20年度より鳥取県から委託を受け、平成21年度より政令指定都市への移行に伴い、岡山市から委託を受けている。

また平成24年度からタンデムマス検査が導入され対象疾患は従来の6疾患から19疾患に拡大し、一時的ではあるが埼玉県、愛媛県からの委託を受けた。

平成25年度からは島根県より3項目の委託を受けた。

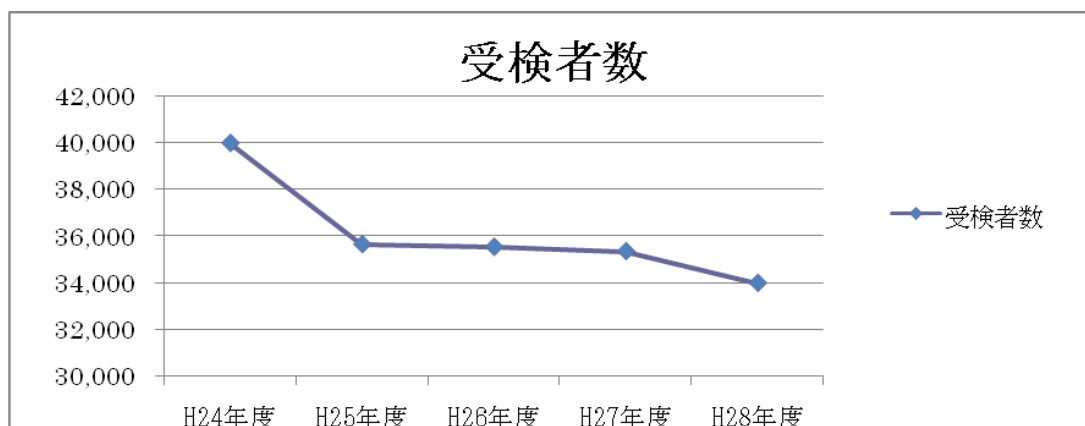
33,996人（初回検体数:32,127人、再採血による再検査数:1,869人）の検査を実施し、前年度に比べ1,361人（3.85%）の減少であった。

確定患児は37人（0.12%）であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
受検者数	40,000	35,659	35,543	35,357	33,996



② 検査実績

対象疾患	初回検体数	要再検査	要精検	患児件数
先天性甲状腺機能低下症	32,127	462 (1.44%)	65 (0.20%)	31 (0.10%)
先天性副腎過形成症		514 (1.60%)	96 (0.30%)	3 (0.01%)
ガラクトース血症		64 (0.20%)	9 (0.03%)	0 (0.00%)
アミノ酸代謝異常症	26,257	12 (0.04%)	5 (0.02%)	2 (0.01%)
有機酸代謝異常症		77 (0.24%)	2 (0.01%)	1 (0.00%)
脂肪酸代謝異常症		71 (0.22%)	9 (0.03%)	0 (0.00%)
低出生体重児と検体不備の2回採血		680 (2.12%)		

3) 検査方法

出生から 4～6 日目に、新生児の踵から 4 スポットの血液をろ紙に採血する。

よく乾燥されたものを検体とする。

ガラクトース血症はマイクロプレート酵素法及びボイトラー法で検査。

先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎過形成症は ELISA 法で検査。

アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症はタンデムマス法で検査する。

2 環 境 部

(1) 飲料水検査

1) 検査概要

目的・・・水道事業、食品製造、飲用井戸、建築物等における安全な飲み水の確認
 対象・・・自治体、事業所、建築物管理者、貯水槽清掃業者及び個人

2) 実施状況

9,861 件検査を受託し、前年度と比較し 389 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
10,745	11,163	11,236	11,239	11,307	11,228	10,250	9,861

② 平成 28 年度の検査実績

(件)

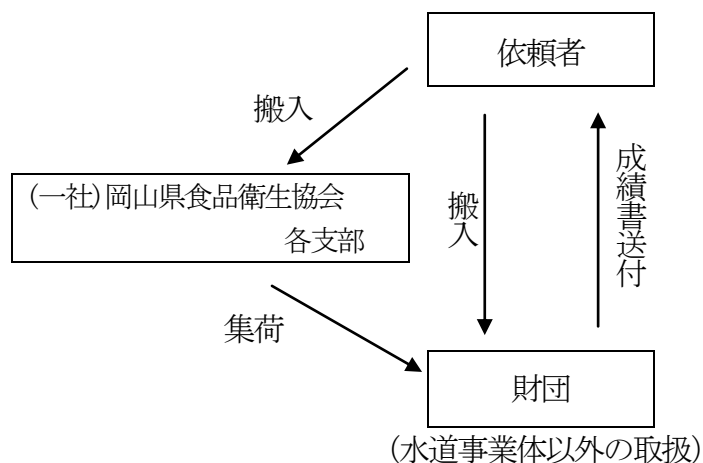
業務分類	検 査 種 別	件 数
水道事業	基準項目	583
	省略不可項目	657
	簡易項目	2,410
	水質管理目標設定項目	126
	農薬類	476
	クリプトスポリジウム	591
	クリプトスポリジウム汚染指標菌	1,699
ビル管理関係	16 項目	163
	11 項目	107
	消毒副生項目	160
食品衛生関連	食品製造用水	99
	ミネラルウォーター	24
飲用井戸水等	化学・細菌検査	3,420

3) 検査方法

厚生労働省告示第 261 号、上水試験方法、食品衛生法等による試験法で各検査項目を測定する。

4) 検査システム

検体の搬入は、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が集荷する。水道事業体については職員が現地訪問により採取し、搬入後、理化学的検査と生物学的検査の部門別に検査を行い、検査成績書を発行する。



5) 登録検査機関

水道法に基づき指定検査機関として認可されていたが、同法の改正により平成 16 年 2 月 27 日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

また、ビル管理法に基づく水質検査は昭和 47 年より登録検査機関となっている。

(2) 簡易専用水道検査

1) 検査概要

目的・・・建築物等における安全な飲み水の確保
 対象・・・マンション・学校・病院・事務所ビル等

2) 実施状況

2,027 検査を受託し、前年度と比較し 84 件減少した。

① 受託検査数の年度別推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
2,106	2,125	2,127	2,104	2,118	2,125	2,111	2,027

② 平成 28 年度の検査実績

(件)

簡易専用水道		小規模 貯水槽水道他	総件数
現場検査	書類検査		
1,655	262	110	2,027

③ 平成 28 年度の不適合率

簡易専用水道	小規模 貯水槽水道	全 体
31.5	22.4%	30.9%

※不適合率とは「良好」以外と判定された施設の割合

④ 簡易専用水道の不適合率の年度別推移

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
45.5%	43.5%	44.0%	43.0%	38.2%	36.4%	33.3%	30.9%

3) 検査方法

水道法、施行規則、厚生労働省告示、岡山県、岡山市及び倉敷市簡易専用水道の取扱に係る指導指針

4) 検査システム

検査実施については、設置者又は設置者の委託を受けた管理者等からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

水道法第34条2の第2項に基づく指定検査機関として昭和54年10月から検査を行っていたが、同法の改正により平成16年3月31日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

(3) 浄化槽法定検査

1) 検査概要

目的・・・事業所・店舗や家庭等の浄化槽放流水による公共用水域の水質の保全

対象・・・自治体、浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

7 条検査 904 件、11 条検査 49,612 件を合わせて 50,516 件の検査を受託し、前年度と比較し 27 件の増加であった。

① 法定検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
50,725	50,578	50,638	50,591	50,325	50,705	50,489	50,516

② 7 条検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
1,608	1,237	1,269	1,118	1,062	1,201	1,041	904

③ 11 条検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
49,117	49,341	49,369	49,473	49,263	49,504	49,448	49,612

④ 平成 28 年度の検査判定内訳

(件)

判 定	7 条検査	11 条検査		
			みなし 浄化槽	合併処理 浄化槽
適 正	735	35,746	10,141	25,605
概ね適正	164	13,439	3,537	9,902
不適正	5	427	231	196
総件数	904	49,612	13,909	35,703

3) 検査方法

浄化槽法、施行規則、環境省告示、岡山県及び岡山市要綱

4) 検査システム

○7条検査（設置後検査）

浄化槽設置者（又は施工業者）は、浄化槽設置前に設置票、7条検査依頼書に検査料金を添えて岡山県浄化槽施工協同組合の窓口へ提出する。

提出された書類、検査料金は後日検査機関に送付され、7条検査の実施計画を立てる。

検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について8,000円（非課税）と定めている。

○11条検査（年1回定期検査）

浄化槽設置者（管理者）は、保守点検業者、清掃業者及び指定検査機関と一括契約方式により委託契約を結び、検査料金は保守点検業者の協力により保守点検料金に含めて徴収され、法定検査実施後に検査機関に支払われる。

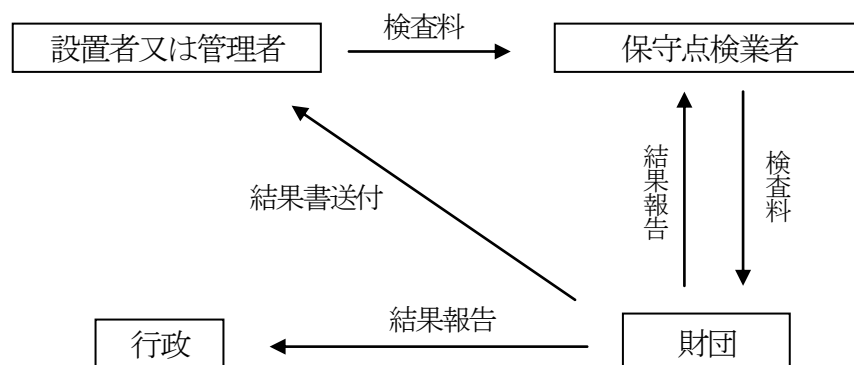
検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について5,700円（非課税）と定めている。

○検査について

検査は、外観検査、水質検査、書類検査について行い、設置者（管理者）に検査結果書を送付する。

検査結果で「不適正」と判定された浄化槽並びに未保守浄化槽については、関係行政機関、関係団体に報告し改善指導を要請している。

また、保守点検業者及び施工業者にも改善策を講ずるべく不適正の内容を報告している。



5) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を開始する。

(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査

1) 検査概要

目的・・・事業所、店舗、家庭等の浄化槽放流水の水質状況確認、及び浄化槽の
浄化機能検査

対象・・・浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

6,354 件検査を受託し、前年度より 5 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
7,328	7,262	7,324	7,066	6,702	6,694	6,349	6,354

② 検査実績

(件)

28 年度	機能検査	放流水検査
総検査項目数	605	5,749

③ 主な項目の検査数

(件)

検 査 項 目	件 数
p H	6,322
BOD	5,767
COD	3,746
S S	3,540
ノルマルヘキサン抽出物質	732
全窒素	3,032
全りん	3,043
塩化物イオン	4,535
透視度	4,570
大腸菌群数	2,298
外観	6,309
臭気	4,570

3) 検査方法

衛浄第34条、JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、対象施設の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を開始する。

(5) 産業排水検査

1) 検査概要

目的・・・事業所等による排水の汚染状況確認

対象・・・自治体、事業所、ホテル、老健施設等

2) 実施状況

2,634 件検査を受託し、前年度より 492 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
3,150	2,798	2,550	2,969	2,251	2,211	2,142	2,634

② 検査実績

(件)

28 年度	理化学項目検査	微生物項目検査
総検査項目数	14,127	1,256

③ 主な項目の検査数

(件)

検 査 項 目	件 数
p H	1,742
BOD	1,820
COD	1,666
DO	22
S S	1,396
ノルマルヘキサン抽出物質	1,534
全窒素	1,598
全りん	1,562
塩素イオン	253
カドミウム	104
鉛	98
六価クロム	155
シアン化合物	103
有機リン	71
ヒ素	85
総水銀	92
アルキル水銀	71
P C B	67
六価クロム溶出試験	48
大腸菌群数	950

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、官公庁及び事業場等の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第 107 条の計量証明事業所

(6) 河川水検査

1) 検査概要

目的・・・河川、海域及び湖沼等における自然環境の保全と安全な生活環境の確保
対象・・・自治体、事業所等

2) 実施状況

1,152 件検査を受託し、前年度より 321 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
1,423	2,035	1,617	1,847	1,512	1,567	1,473	1,152

② 検査実績

(件)

28 年度	理化学項目検査	微生物項目検査
総検査項目数	14,332	1,314

③ 主な項目の検査数

(件)

検 査 項 目	件 数
p H	2, 016
B O D	1, 171
C O D	1, 376
D O	1, 824
S S	1, 324
ノルマルヘキサン抽出物質	494
全窒素	857
全りん	843
塩素イオン	208
カドミウム	176
鉛	199
六価クロム	155
シアン化合物	160
有機リン	11
ヒ素	216
総水銀	173
アルキル水銀	142
P C B	149
農薬（ゴルフ場等）	141
一般細菌数	9
大腸菌群数	1, 143
大腸菌数	414

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、官公庁及び事業場等の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第 107 条の計量証明事業所

(7) 食品検査

1) 検査概要

目的・・・安心・安全な食品の確保、飲食物に起因する衛生上の危害防止
 対象・・・自治体、食品製造業者、食品販売店及び給食事業所等

2) 実施状況

6,643 件検査を受託し、前年度と比較し 88 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
衛生検査	5,584	6,172	5,828	5,763	5,410	6,414	6,731	6,643
輸入食品 自主検査等	95	65	48	68	57	43	56	32

② 検査実績

(件)

28 年度	理化学的検査項目	細菌学的検査項目
検査項目数	3,196	17,649

③ 主な項目の検査数

(件)

検 査 項 目	件 数
栄養成分等検査	1,348
添加物等検査	171
重金属類の検査	570
農薬等検査	68
細菌数	3,562
大腸菌群	3,590
サルモネラ	1,733
黄色ブドウ球菌	2,277
腸炎ビブリオ	212
腸管出血性大腸菌	325
器具容器包装の検査	87
ノロウイルス	462

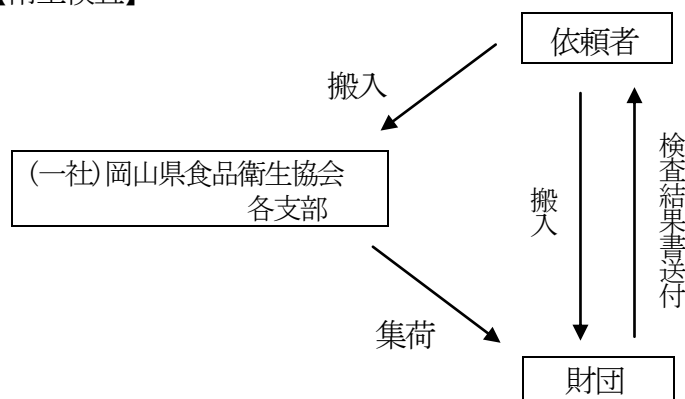
3) 検査方法

食品衛生法等に基づく公定法又は公定法に準拠した方法により、国の認可を受けた「検査実施標準作業書」等に基づき行う。

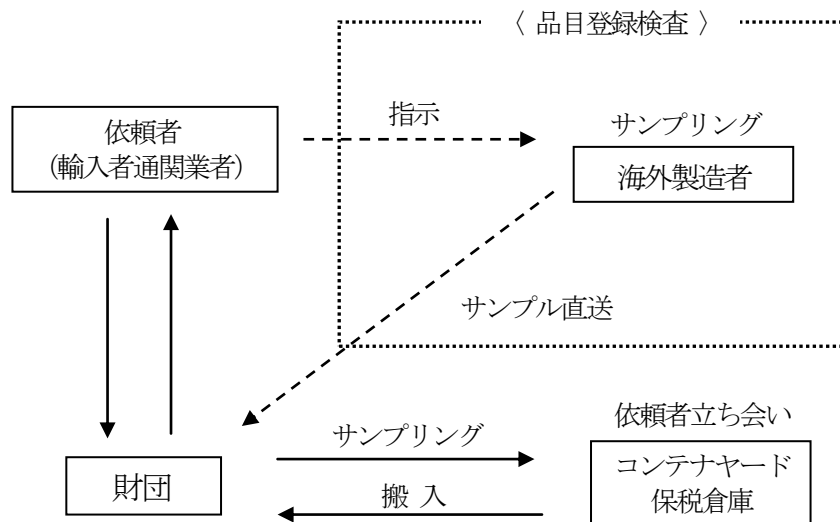
4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が集荷する。また、輸入食品等自主検査等は、登録検査員が現場に出向きサンプルを採取し、搬入後、理化学的検査と細菌学的検査の検査を行い、検査結果書を送付する。

【衛生検査】



【製品検査・輸入食品等自主検査】



5) 登録検査機関

食品衛生法に基づき昭和 63 年 3 月 10 日付けで認可されていた「指定検査機関」が同法の改正により平成 16 年 2 月 27 日から厚生労働大臣が認可する「登録検査機関」に移行し、平成 21 年 2 月 27 日付けで厚生労働大臣から登録の更新を受けている。また、平成 21 年 6 月に食品衛生法第 26 条 3 項の追加登録を受け、輸入食品等命令検査の受託を開始した。

(8) 腸内細菌検査等

1) 検査概要

目的・・・腸内細菌に起因する衛生上の危害防止

対象・・・食品製造業者及び給食事業所等

2) 実施状況

7,934 件検査を受託し、前年度より 589 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
11,708	10,297	10,507	10,244	9,033	8,742	8,523	7,934

② 主な項目の検査数

(件)

	検 査 項 目	件 数
腸内細菌	赤痢・腸チフス・パラチフス	8,048
	サルモネラ	8,010
	腸炎ビブリオ	107
	腸管出血性大腸菌（O-157 を含む）	7,946
砂場の砂	犬猫回虫卵	95
	砂場の細菌（E. coli）	52

3) 検査方法

食の安全を確保するための微生物協議会の「食品関連従事者の腸管系病原菌保菌者検査マニュアル」に基づき行う。

4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、（一社）岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が回収、搬入後、検査を行い、検査結果書を送付する。

(9) その他の検査

1) 検査概要

目的・・・プール、温泉等の衛生管理の保全とレジオネラ症の発症防止

対象・・・学校、温泉施設等

2) 実施状況

2,217 件検査を受託し、前年度より 170 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
1,470	1,470	1,294	1,316	2,403	1,874	2,387	2,217

② 主な項目の検査数

(件)

検 査 項 目	件 数
プール水検査 (化学・細菌)	218
プール水検査 (トリハロメタン)	434
温泉検査	18
室内の化学物質検査	12
浴槽水検査	416
レジオネラ属菌検査	853

3) 検査方法

「遊泳用プールの検査基準について」及び「学校環境衛生の基準」に示された内容に沿って、定められた項目及び検査方法で検査を実施する。

温泉法、温泉法施行規則、鉱泉分析法指針に則り実施する。

室内空気中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について実施する。

4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が回収、あるいは職員が現場に出向きサンプルを採取し、搬入後、検査を行い、検査結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録温泉分析機関

(10) 精度管理

1) 環境部における ISO9001:2008 の運用状況

環境部河川水・排水検査部門は、顧客サービスの向上と品質管理システムの強化を目指す目的から、平成 14 年 10 月に（一財）日本品質保証機構（JQA）から ISO9001:2000 の認証を取得した。

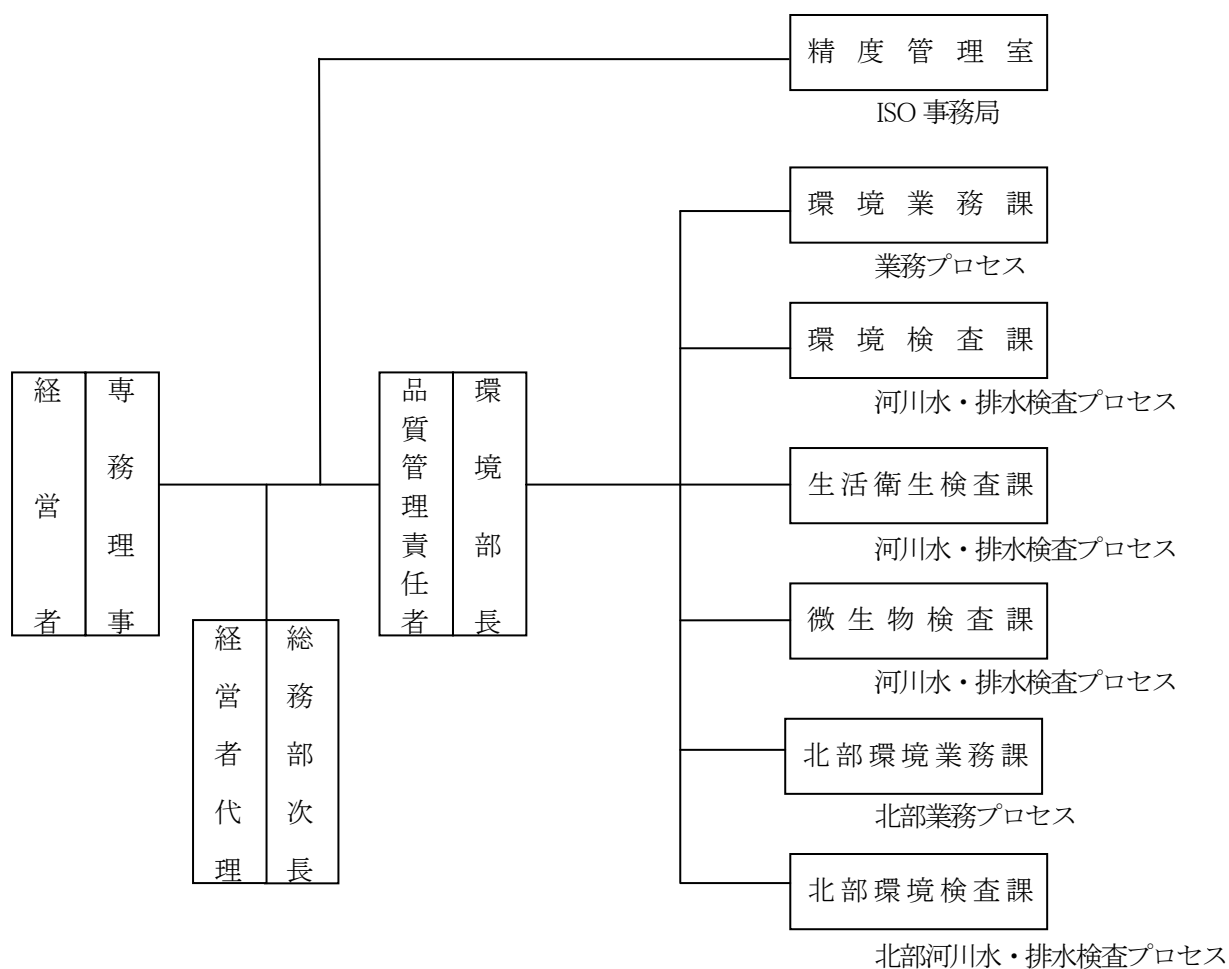
また、平成 21 年 12 月に ISO9001:2008 年版へ移行し、平成 22 年、25 年及び 28 年 11 月に認証を更新登録した。

なお、計画的に年 2 回の内部監査と年 1 回の外部審査を実行し、年度末には経営者によるマネジメントレビューで品質管理システムの有効性評価を行い、継続的改善に繋げている。

2) ISO 対象組織と責任体制

経営者に専務理事、その代理者を総務部次長とし、品質管理責任者（環境部長）を中心に品質管理体制の強化及び品質管理の継続的改善に努めている。

平成 28 年度の ISO9001 対象部門の体制



3) 水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部飲料水検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 20 条第 3 項に基づく登録検査機関として登録を受け、平成 21 年 1 月に水質検査機関による水道水水質検査結果の信頼性確保を目的とした（公社）日本水道協会の水道水質検査優良試験所規範（水道 GLP）の認定を取得している。

水道 GLP 品質管理マニュアルに従い検査を適切に実施すると共に、計画的な内部・外部精度管理調査、内部点検や記録の管理を厳重に行うなど体制及び検査精度の維持向上に努めている。

また、毎年厚生労働省が行っている水道水質検査の統一精度管理調査においては、連続して最高の評価を受けている。

4) 簡易専用水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部簡易専用水道検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 34 条の 2 第 2 項に基づく登録検査機関として登録を受けており、検査結果の信頼性を確保するためのシステムとして GLP 体制を整備している。簡易専用水道業務規定に従い検査を適切に実施すると共に、計画的な内部・外部精度管理調査、内部点検や記録の管理を厳重に行うなど、体制及び検査精度の維持向上に努めている。

5) 食品 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部食品検査（理化学的検査区分及び細菌学的検査区分）は、平成 16 年 2 月より食品衛生法第 4 条第 9 項に基づく登録検査機関として登録を受け、試験検査結果の信頼性を確保するシステムとして GLP 体制を整備している。登録検査機関業務規程に従い検査を適切に実施すると共に、計画的な内部・外部精度管理調査、内部点検や記録の管理を厳重に行うなど、体制及び検査精度の維持向上に努めている。

また、毎年中国四国厚生局による立ち入り検査が実施され、その際の指摘事項については速やかに改善措置を講じている。

3 食 鳥 検 査 事 業

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、厚生労働大臣の指定検査機関として岡山県知事の委任を受け、県内の大規模食鳥処理場 5 施設（ブロイラー処理 2 施設、成鶏処理 3 施設）に、13 名の検査員（獣医師）を派遣し、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）をはじめ各種鶏病等の検査の実施により、検査不合格の食鳥の廃棄措置等を通じ安全な鶏肉流通の確保に努めた。

(単位：千羽)

年度 区分	平成27年度	平成28年度	増減 (%)
食鳥検査羽数	15,722	16,183	102.9

1) 検査概要

目的・・・疾病罹患食鳥肉を排除し、食鳥肉に起因する衛生上の危害の発生を防止する。

対象・・・県内の大規模食鳥処理場（年間30万羽を超えて処理する施設）5施設。

（内訳：ブロイラー処理2施設、成鶏処理3施設）

2) 実施状況

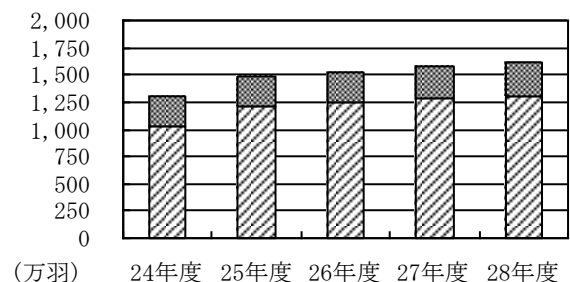
16,182,765 羽の検査を実施し、前年度比 102.9%であった。

内訳はブロイラー13,038,166 羽（前年度比 101.9%）、成鶏 3,144,599 羽（前年度比 107.5%）であった。

① 検査羽数の推移

(羽)

年 度	ブロイラー	成 鶏	合 計
24年度	10,305,701	2,748,679	13,054,380
25年度	12,112,752	2,796,706	14,909,458
26年度	12,430,314	2,889,068	15,319,382
27年度	12,795,799	2,926,467	15,722,266
28年度	13,038,166	3,144,599	16,182,765



■ ブロイラー ■ 成 鶏

② 検査成績

(平成 28 年度)

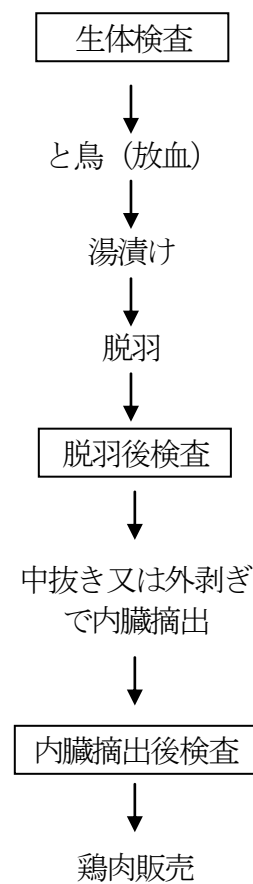
検査項目			廃棄区分			
			禁　　止	全部廃棄	一部廃棄	
疾病別羽数	ウイルス・クラミジア類	高病原性鳥インフルエンザ				
		鳥インフルエンザ				
		鶏痘				
		伝染性気管支炎				
		伝染性喉頭気管炎				
		伝染性ファブリキウス嚢病				
		ニューカッスル病				
		鶏白血病				
		封入体肝炎				
		マレック病				
		その他				
	細菌症	鶏マイコプラズマ病				
		大腸菌症	1, 299	12, 865		
		伝染性コリーザ				
		サルモネラ病				
		鶏結核病				
		ブドウ球菌症	39	152		
		その他				
	その他の疾病	毒血病				
		膿毒症				
		敗血症	16	158		
		豚丹毒菌病				
		ロイコチトゾーン病				
		真菌症				
		原虫症（トキソ除）				
		寄生虫病				
		変性	6, 546	38, 916	24, 274	
		尿酸塩沈着症				
		水腫			1, 919	
		腹水症	10, 605	22, 370		
		出血	93	5, 403	27, 400	
		炎症	505	5, 792	216, 105	
		萎縮				
		腫瘍	5	5, 676	7, 615	
		臓器の異常・色形臭等		1		
		異常体温				
		黄疸	2	20		
		外傷	5	791	12, 623	
		中毒諸症				
		削瘦・発育不良	13, 915	7, 211		
		放血不良	1, 341	11, 752		
		湯漬過度		2, 797		
		その他		14, 695	5	
合　　計			34, 371	128, 599	289, 941	
			452, 911			

3) 検査方法

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、検査員（獣医師）が各処理場の従業員である食鳥処理衛生管理者と連携して検査を実施する。

4) 検査システム

鶏病の種類・程度等により「と鳥または解体禁止」、「全部廃棄」、「一部廃棄」に分類し処理される。



高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の検査は、疑わしい場合に簡易検査キットを使用して検査する。

5) 法律上の位置づけ

厚生労働大臣の指定検査機関であり、また、岡山県知事の委任検査機関である。

4 附 属 病 院

医療の提供

診療科は内科、呼吸器科、胃腸科、循環器科、放射線科、リハビリテーション科で、病床数126床で運営している。

呼吸器疾患の専門性を活かし肺結核、慢性呼吸不全、気管支喘息、肺がんなどの治療に取り組むとともに、気管支鏡検査をはじめとした確定診断や治療法の選択を行い、他の医療機関からの患者紹介に対応している。

また、病院が行う健康診断や財団内の人間ドック部門・健康診断部門・健康増進部門との連携により、脳卒中、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病の早期発見、早期治療に努めるとともに、禁煙指導にも重点を置いており、ニコチン依存から逃れるための禁煙外来や啓発のための講師派遣も行っている。

(1) 外来状況

1) 概要

内科全般を広く診療し、特に呼吸器疾患に対する専門医の適切な診断・治療に取り組んでいる。

また、生活習慣病の早期発見、早期治療のため健康診断を実施し予防医療に努めている。

診療時間：平 日 9：00～12：00 13：30～17：00
土曜日 9：00～12：00（健康診断は行っていない）

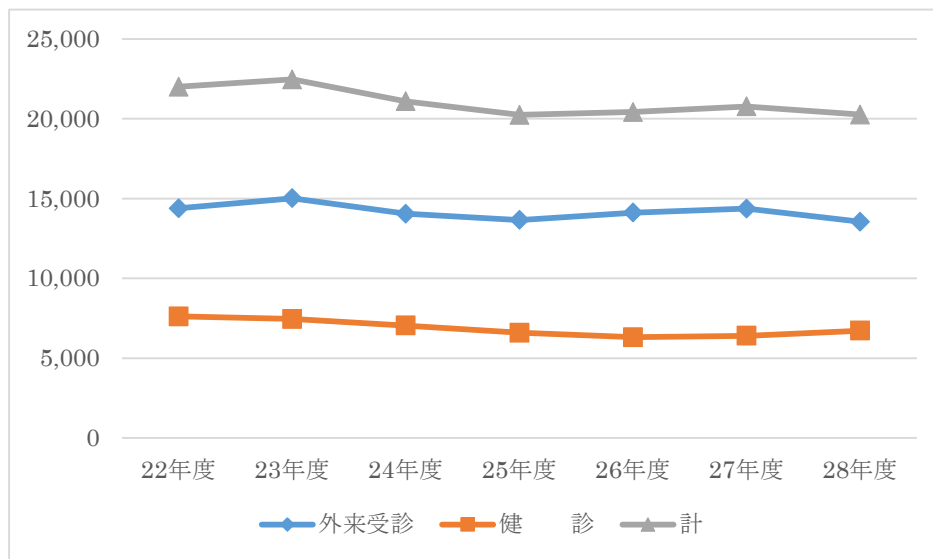
2) 状況

① 年度別外来受診・健診の状況

(人)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
外来受診	14,387	15,016	14,044	13,652	14,112	14,366	13,539
健 診	7,612	7,451	7,044	6,584	6,304	6,400	6,715
計	21,999	22,467	21,088	20,236	20,416	20,766	20,254

② 外来患者年度推移



(2) 入院状況

1) 概要

呼吸器疾患の専門性や一般病棟と療養病棟の併設メリットを活かしながら、「信頼される医療の確保」、「心のかよう看護の推進」に取り組んでいる。

機能性と安全性を重視した医療設備により、専門的で人に優しい医療の提供を行っている。

病 棟 結核46床（内休止26床） 一般40床 療養40床
看護体制 2交代制

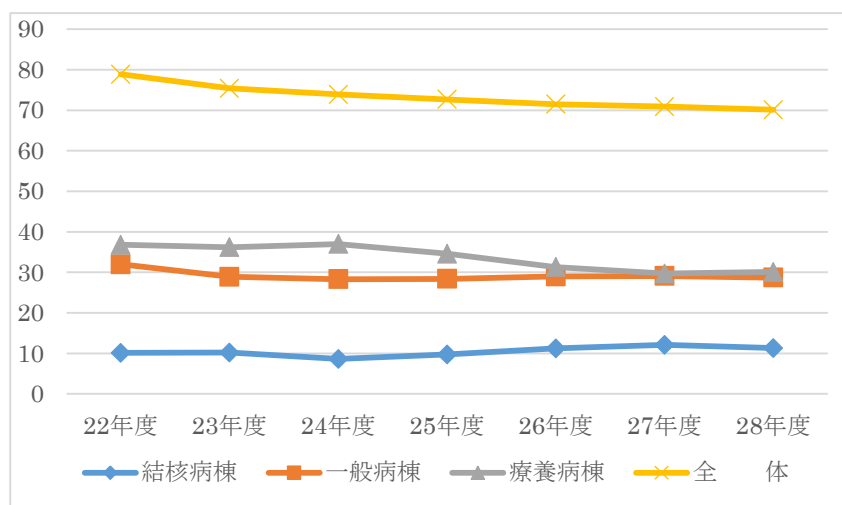
2) 状況

① 年度別入院患者の状況（1日当たりの患者数）

(人)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
結核病棟	10.1	10.2	8.6	9.7	11.2	12.1	11.3
一般病棟	32.0	28.9	28.3	28.4	29.0	29.1	28.7
療養病棟	36.8	36.2	37.0	34.6	31.3	29.7	30.1
全 体	78.9	75.4	73.9	72.7	71.5	70.9	70.1

② 入院患者年度推移



(3) リハビリテーション

各種リハビリ機器を備えた訓練室と理学療法士による専門的リハビリにより、QOLを高めるとともに機能回復に努めている。

本院は、呼吸器の専門病院でもあるため、COPDなど呼吸器疾患の患者に呼吸方法の指導や運動療法など、在宅での自己管理についても指導している。

(4) 先進の医療機器による検査

早期発見、早期治療のため、電子内視鏡、超音波断層装置、CT、MRIを活用し、的確な診断のもとに治療を行っている。

(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供

医療安全管理委員会、感染予防対策委員会などの各委員会の活性化を図り、安全・安心な医療サービスの提供に努めている。

また、小集団活動で病棟の清潔な環境確保等に取り組むとともに、高齢者にも食べやすく美味しいソフト食の提供など調理方法の工夫を行っている。

(6) 地域連携の推進

地域連携室を設け、地域の病院や診療所と連携し、紹介患者のスムーズな受け入れに努めており、入院患者の約7割が地域の病院・診療所からの紹介となっている。

また、開業医との連携を密にし、短期入院患者の受け入れに努めるとともに、平成22年度から退院支援調整室を設置し退院支援等を実施している。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
退院支援計画書作成件数	64	62	126	106	100	71	80
介護支援連携指導件数	85	72	94	80	54	49	51

(件)

(7) 結核医療連携拠点病院の指定

平成25年2月に岡山県から結核診療連携拠点病院に指定され、結核患者への高度医療提供、研修会の開催、医療機関からの相談等を行っている。

相談件数

(件)

相談機関	25年度	26年度	27年度	28年度
病 院	6	31	36	51
診 療 所	1	6	12	14
高 齢 者 施 設		3	3	
保 健 所		5	4	3
大 学、学 校		1	1	
そ の 他		8	2	8
計	7	54	58	76

※25年度は10月から

(8) 指導・相談

1) 医療相談

医療ソーシャルワーカーを中心に、入院相談や退院支援を行うとともに、地域医療機関や老健・介護保健施設との連携に努めている。

また、患者サポート体制の充実に取り組み、入院、外来患者の心理的・経済的な相談・支援に取り組んでいる。

2) 服薬指導

薬剤師が正しい薬の知識をわかりやすく説明している。また、症状にあった正しい服薬について指導を行っている。

3) 栄養指導

管理栄養士が個人の病状にあった、実行可能で長続きする食事療法の指導を行っている。

服薬・栄養指導件数

(件)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
服薬指導	623	585	558	545	702	642	247
栄養指導	218	353	339	381	527	554	570

(9) 財団各部門との連携

人間ドック、保健部、南部健康づくりセンターと連携し、地域住民の生活習慣病予防対策に取り組んでいる。

また、糖尿病教室を開催し、地域の方々の健康づくりに取り組んでいる。

	開催日	参加者数	講演内容
第3回	28. 9. 10	14人	・糖尿病栄養教室 ～秋の果物を上手に取り入れよう！～
第1回	28. 11. 31	39人	・動脈硬化予防セミナー
第2回	29. 3. 10	12人	・糖尿病栄養教室 ～食品交換表を使ってみよう ごはんってどのくらい食べていいの？～

(10) 難病相談・支援事業

岡山県から「岡山県難病相談・支援センター業務」を受託し（平成16年10月～）、難病患者やその家族からの療養上の悩みや不安、就労等に関する相談に対応している。

相談件数

(件)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
電話相談	591	736	819	955	799	561	722
面接相談	167	182	196	199	146	150	250
メール相談	87	120	208	165	114	72	102
合計	845	1,038	1,223	1,319	1,059	783	1,074

交流会、研修会の開催

定例患者交流会等（平成22年度 29回、平成23年度 28回、平成24年度 28回、平成25年度 29回、平成26年度 29回、平成27年度 30回、平成28年度 31回）

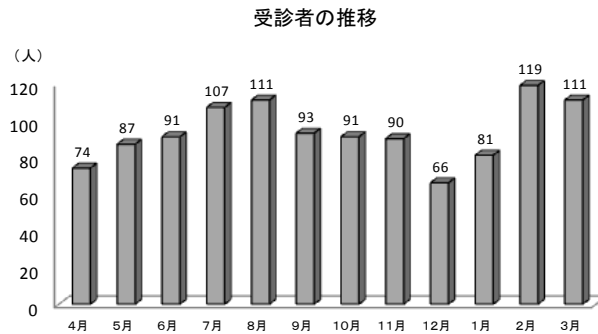
5 南部健康づくりセンター

(1) 健康増進部門

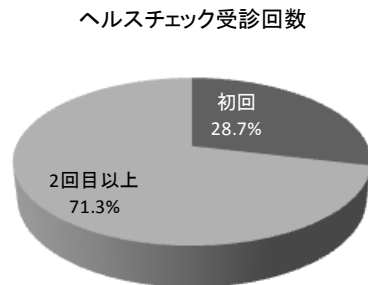
1. ヘルスチェックの状況

1) 受診者の推移

ヘルスチェック受診者は年間1,121人、1ヵ月平均93人であった。

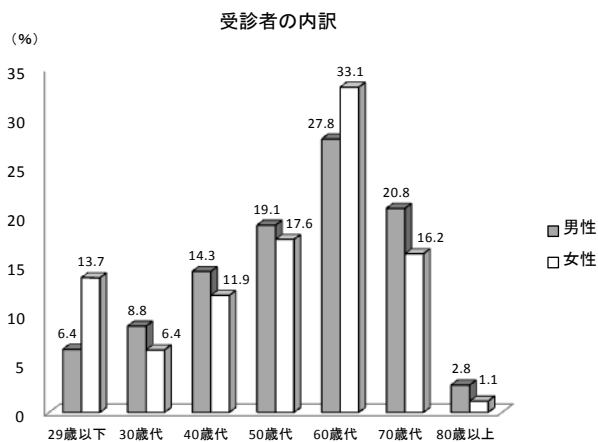


ヘルスチェックの受診回数は、初回が28.7%、2回目以上が71.3%であった。

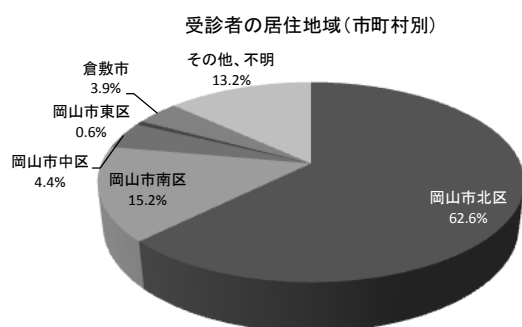


2) 受診者の内訳

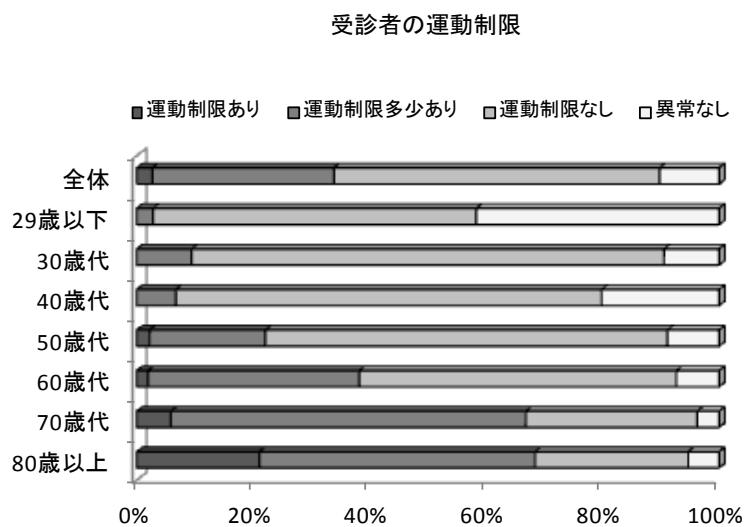
ヘルスチェック受診者の内訳を性別で見ると男性が43.2%、女性が56.8%であった。年代別で見ると男性、女性ともに60歳代が最も多かった。



ヘルスチェック受診者の居住地域を市町村別にみると、全受診者のうち 82.8%が岡山市に在住し、ついで倉敷市が多かった。

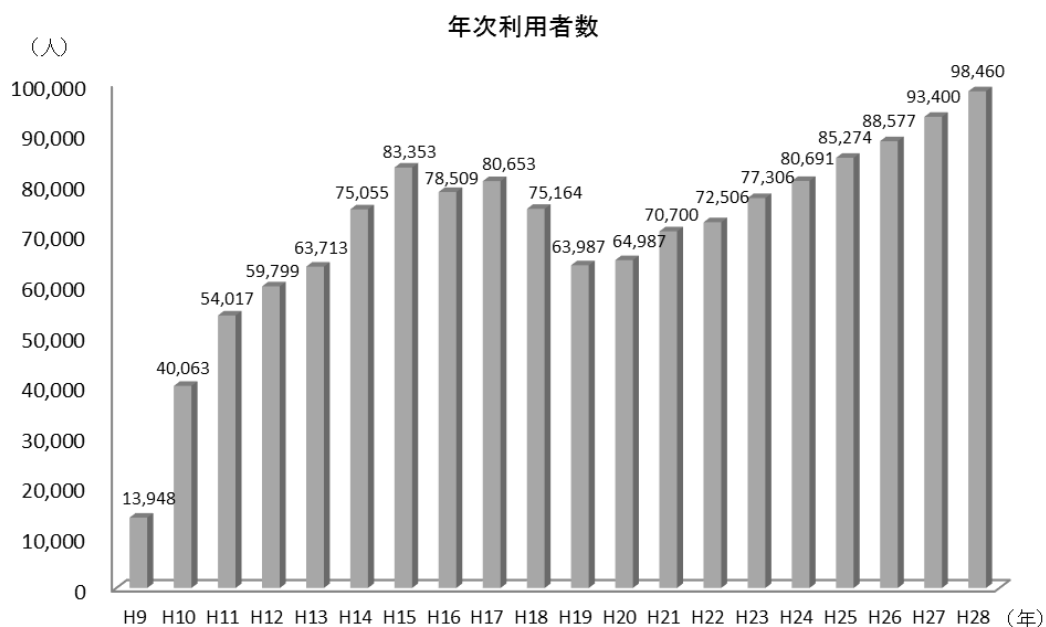
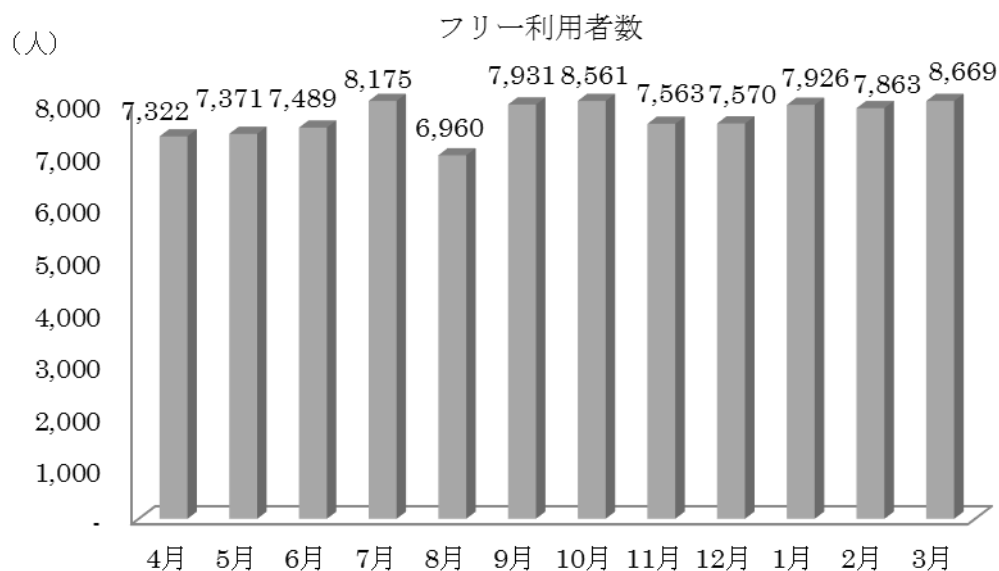


運動制限の程度をみると、何らかの運動制限のあった人は全体では 33.9%であったが、60 歳代では 38.2%、70 歳代では 66.9%、80 歳代では 68.5%であった。



2. 施設自由（フリー）利用状況

施設フリー利用者数は年間 98,460 人、1 ヶ月平均 8,205 人、1 日平均 322 人であった。
前年度と比較すると、年間利用者数は 5,060 人の増加となった。



3. お手軽教室

1) 教室内容

平成 28 年度は、計 79 教室を開講した。

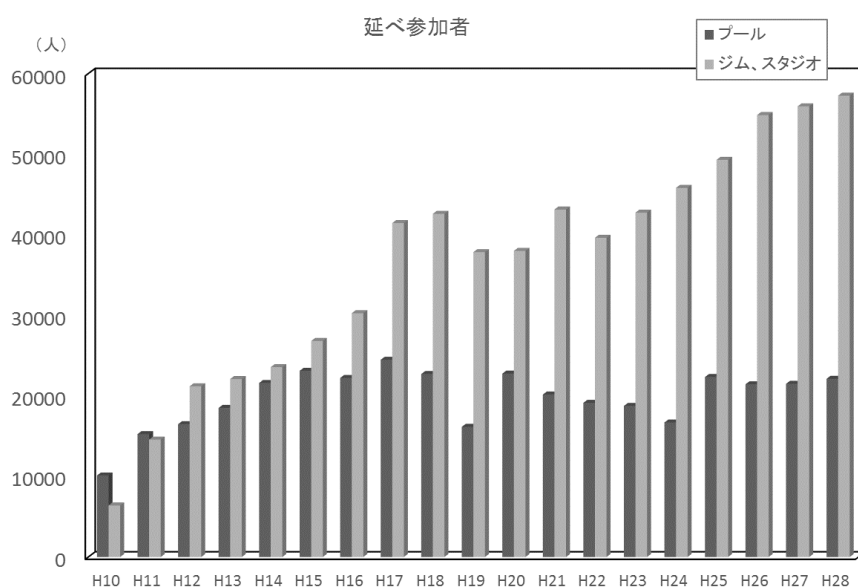
週あたりのお手軽教室開講数（平成 28 年 11 月現在）

水泳	超初級	2
	初級（週の泳法）	4
	初級・中級（週の泳法）	2
	初級・中級（クロール）	1
	中級（週の泳法）	2
	中上級（週の泳法）	1
	中上級（インターバル）	2
	ステップアップ四泳法中上級	1
	レッツ四泳法中上級	1
	上級（週の泳法）	1
	スキルアップ四泳法上級	1
水中運動	膝腰ゆっくり水中運動	1
	膝腰スッキリ水中運動	1
	ひきしめ水中運動	1
	アクアサーキット	1
	アクアビクス	3
	エンジョイアクア	1
エアロビックダンス	フラエアロ	1
	シンプルエアロ	1
	かんたんエアロ	2
	やさしいエアロ	3
	ちょっとがんばるエアロ	4
	オリジナルエアロ	2
	なかなかエアロ	3
	がんばるエアロ	1
ジム	ラジオ体操	2
	ゆっくりボール	1
	すっきりストレッチ	1
	スッキリ体操	1
	肩スッキリ体操	1
	ダンベル体操	1
	すわって健脚ストレッチ	1
	すわって健脚体操	1
	すわってスッキリ体操	1
	すわってルンルンビクス	1
	おまかせマット	1
	元気健脚サーキット	1

	やさしいステップ	1
	ひきしめステップ	1
	エンジョイステップ	1
	ステップサーキット	1
	ひきしめボディ	2
	ひきしめサーキット	1
	レッツジョギング	1
太極拳	はじめての太極拳	1
	太極拳	1
その他	ストレッチポール	2
	マットオリジナル	1
	ストレッチヨガ	1
	オリジナルヨガ	2
	リラックスヨガ	1
	リフレッシュヨガ	1
	パワーヨガ	1
	シェイプヨガ	1
	ピラティス or ポル・ド・ブラ	1
	ピラティス	1
	エンジョイフラ	1
	リズムフィット☆ボクシング	1

2) 参加者の推移

今年度のお手軽教室の延べ参加者数は、79,382人で過去最高の参加者数であった。プール教室の延べ参加者数は22,115人と、全体の約3割であった。



4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室

調理実習と健康に関する講話により、正しい情報の提供と健康に関する知識の普及を行いながら食生活の改善を図るとともに、旬の食材の良さや季節の料理を伝える場として健康づくり栄養講座を開催した。また、パンやお菓子作りの技術や目新しいおもてなしメニューを学ぶ場として外部講師による料理教室を開催した。

健康づくり栄養講座は、全 17 回の開催で延べ 230 名の参加者、初心者のための栄養講座は、全 18 回の開催で延べ 168 名の参加者、簡単ヘルシースイーツ&ハーブティーは、全 5 回の開催で延べ 19 名の参加者があった。外部講師による料理教室は、全 5 回の開催で延べ 49 人の参加があった。

1) 健康づくり栄養講座

【前期】

日時	テーマ	ミニ講話内容	参加人数(合計)
平成28年4月22日	家庭料理～和食～	食物アレルギーについて	19
平成28年4月24日			5
平成28年5月27日	家庭料理～洋食～	食中毒に気をつけよう	22
平成28年6月24日	家庭料理～中華～	筋肉をつけるための食事	17
平成28年6月26日			5
平成28年7月22日	おもてなし料理～和食～	疲労回復に効果的な食事	16
平成28年7月24日			11
平成28年8月26日	おもてなし料理～洋食～	アルコールの上手なとり方	16
平成28年8月28日			15
平成28年9月25日	おもてなし料理～中華～	がん予防の食事	15
平成28年9月30日			18

【後期】

日時	テーマ	講話内容	参加人数(合計)
平成28年10月5日	秋の食材で食養生	食養生について	12
平成28年10月14日			8
平成28年12月7日	おせち料理	介護食について	14
平成28年12月16日			15
平成29年2月15日	冬野菜を使った料理	野菜の上手なとり方	13
平成29年2月17日			9

2) 初心者のための栄養講座

【前期】

日時	テーマ	参加人数(合計)
平成28年4月2日	鶏のみそ照り焼き	12
平成28年4月21日		6
平成28年5月7日	パピョット	11
平成28年5月19日		6
平成28年6月4日	ガパオライス	9
平成28年6月16日		9
平成28年7月2日	あじの南蛮漬け	14
平成28年7月21日		6
平成28年8月6日	タンドリーチキン	11
平成28年8月18日		6
平成28年9月3日	麻婆茄子	12
平成28年9月15日		6

【後期】

日時	テーマ	参加人数(合計)
平成28年11月9日	ポークピカタ	3
平成28年11月26日		15
平成29年1月14日	巻き寿司	9
平成29年1月18日		15
平成29年3月8日	油淋鶏	7
平成29年3月18日		11

3) 簡単ヘルシースイーツ&ハーブティー

日時	テーマ	参加人数(合計)
平成28年4月13日	和菓子①&ハーブティー	7
平成28年5月11日	洋菓子①&ハーブティー	3
平成28年7月13日	和菓子②&ハーブティー	4
平成28年8月10日	洋菓子②&ハーブティー	3
平成28年9月14日	野菜&果物のお菓子②&ハーブティー	2

4) 外部講師料理教室

【第1回】

日時	テーマ	内容	参加人数(合計)
平成28年10月28日	こだわり料理教室 ～「カラダ」と「ココロ」に優しい料理～	生地から手作りスパイシーなホットドック、アップル ヨーグルトケーキ、カルダモンクリーム添え	10
平成28年11月25日		国産大豆使用の豆腐づくしメニュー大集合！和風 の麻婆豆腐丼、豆腐とおからのコロッケ、豆乳マヨ ネーズサラダ、豆乳プリン、豆腐のみたらし団子	15
平成28年12月8日		ブッシュ・ド・ノエル、スパイシーなパイ	4

【第2回】

日時	テーマ	内容	参加人数(合計)
平成29年2月16日	発酵ライフを楽しむ	自家製みそ床づくり	12
平成29年3月16日		自家製レモンと生姜のコンフィを使った焼き菓子 (ヨーグルトクリーム添え)	8

5. リラクゼーションセミナー

セミナーの内容

リンパマッサージ、楽笑ヨガのテーマで外部講師を招き、全 13 回実施した。各セミナーとも 90 分間で、テーマに沿った講話やリラクゼーション実技を行った。延べ 79 名の参加があり、女性の参加が多く、年齢は 20 歳代～70 歳代と幅広かった。

「リンパマッサージ」

日時	テーマ	参加者数
平成28年4月27日	リラクスマッサージ&アロマ心理学	5
平成28年5月22日	疲労回復・肩こりなどの緩和・安眠快適	16
平成28年6月29日	頭と手から心を癒す&カラー心理学	10
平成28年7月31日	心も身体も左右する色の力を利用して、快適生活	8
平成28年8月31日	極楽ストレッチ&健康マッサージ 自分の現状を知り、心と身体を健康へとステップ up	2
平成28年11月27日	手軽にできる♪ヘッド・ハンドマッサージ &上手なりボンかけ	5
平成28年12月21日	今年の疲れをリセット☆デトックス マッサージ&アロマクラフト	4
平成29年1月22日	腸で変わる！生活習慣&カラー読心学	7
平成29年2月22日	若顔フェイシャルと頭ほぐし& 老眼防止☆「眼トレーニング」	6
平成29年3月26日	足のリンパマッサージ&老化防止☆ 楽しいバルーンアート	5

「楽笑ヨガ」

日時	テーマ	参加者数
平成28年5月21日	楽笑ヨガ	6
平成28年7月16日	楽笑ヨガ	5

6. 健康増進指導体験

年間の利用件数は 3 件、利用者数は 51 名であった。

開催日	参加団体名	コース	参加人数
平成 28 年 7 月 27 日 (水)	鏡野町愛育委員会	休養	20
平成 29 年 2 月 14 日 (火)	吉備中央町愛育委員会	運動	17
平成 29 年 2 月 24 日 (金)	吉備中央町愛育委員会	運動	14

(2) 教育・研修部門

1. 派遣事業

年間を通して 58 件の派遣依頼を受託した。

実施日	実施元	会名・講座名	人数	派遣者
4/23	備前市	西鶴山地区健康ウォーキング 講話・運動指導「正しい歩き方のコツ」	30	森下 明恵
5/12	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会 栄養講座	10	豊田 加奈子
5/18	辰巳高齢者体操クラブ	高齢者体操	25	高橋 卓也
5/19	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	19	高橋 卓也
5/26	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 おいしく食べてメタボ予防	15	国橋 由美子
5/31	中国電力㈱岡山支社	年代別健康づくり教育	65	高槻 祐子
6/9	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	12	高橋 卓也
6/14	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 ストレスとこころの健康	12	後藤 礼子
6/23	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	7	高橋 卓也
6/30	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	11	高橋 卓也
7/4	岡山県シルバー人材センター連合会	講演「高齢者の健康管理について」	70	関 明徳
7/7	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	0	高橋 卓也
7/14	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	14	高橋 卓也
7/20	公立学校共済組合岡山支部	職場の健康づくり研修会 支援事業 腰痛予防研修会	70	高槻 祐子
7/21	備前市保健福祉部	介護者交流会 講話「介護ストレスの上手な付き合い方について」	32	後藤 礼子
7/22	特別擁護老人ホーム 喜福園	腰痛予防の研修 講習「腰痛・肩こり予防」	50	高橋 卓也
8/4	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会 のびのびストレッチ	10	高槻 祐子
8/17	辰巳高齢者体操クラブ	高齢者体操	25	高橋 卓也
9/1	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	11	高橋 卓也
9/3	栄光テクノ(株)	健康診断の活用方法	30	関 明徳
9/7	(株)日立製作所 中国支社	健康アップセミナー □体力測定 □ランナーの身体づくりについて(運動実践あり)	20	森下 明恵
9/8	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	9	高橋 卓也
9/15	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 岡山支部	健康講話 実践 ストレッチ&ウォーキング	25	森下 明恵
9/29	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	2	高橋 卓也
9/30	久米南町役場 保健福祉課	心の健康講座 講演「心とからだのリフレッシュ」 実習「ハスソルトを作ってみましょう」	50	後藤 礼子
10/4	富国生命保険相互会社 岡山支社	富国生命乳がんセミナー 乳がんセミナー	30	関 明徳
10/6	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	5	高橋 卓也
10/13	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会 栄養講座	10	国橋 由美子
10/13	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	4	高橋 卓也
10/18	岡山県工業技術センター	ウォーキング講座	20	高槻 祐子
10/20	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	22	豊田 加奈子
10/22	(株)ウッドワールドのさき	健康づくり講座	6	斉藤 剛
10/25	岡山県農林水産総合センター	健康づくり講習会 安全衛生(健康づくり腰痛、肩こり予防体操等)	20	斉藤 剛
10/27	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	10	高橋 卓也
11/10	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	17	高橋 卓也
11/12	(株)トーカイ 中国支店	講演「上手な心と身体のめり方」	35	後藤 礼子
11/15	岡山県福祉相談センター	平成28年度 健康管理セミナー 腰痛予防の運動	16	森下 明恵
11/16	辰巳高齢者体操クラブ	高齢者体操	25	高橋 卓也
11/17	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	13	高橋 卓也
11/17	真庭市愛育委員会 勝山支部	健康教室(休養コース) 施設体験利用 休養コース	30	後藤 礼子

実施日	実施元	会名・講座名	人数	派遣者
11/22	岡山看護協会	平成28年度「個人会員の集い」軽体操でリフレッシュ(仮)	20	高槻 祐子
11/23	公益社団法人 岡山県医師会	公益社団法人 岡山県医師会 産業医研修会 「健康づくりのための栄養指導(仮)」	150	国橋 由美子
11/24	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室 からだスッキリ体操	3	高橋 卓也
12/1	岡山県備前県民局井笠地域事務所	健康管理セミナー 楽しく学べる健康づくりセミナー 『食事を見直して、メタボを予防しよう!』 『膝関節痛・腰痛・肩こり予防の運動』	10	豊田 加奈子 高橋 卓也
12/2	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 岡山支部	メンタルヘルスに関する講習	30	後藤 礼子
12/6	社会保険診療報酬支払基金岡山支部	保健衛生講話「肩こり・腰痛対策」のための防止体操	30	斉藤 剛
12/13	備前市保健課健康係	特定保健指導(積極的支援・動機付け支援) 講話・運動指導「やせる体操」	15	高橋 卓也
1/12	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会 のびのびストレッチ	10	高橋 卓也
1/13	備前市保健課健康係	特定保健指導(積極的支援・動機付け支援) 講話・運動指導「やせる体操」	15	高橋 卓也
1/28	岡山看護連盟 岡山西支部3	岡山看護連盟 岡山西支部3研修会 講演「簡単リフレッシュ体操」	30	森下 明恵
2/14	備前市保健課健康係	特定保健指導(積極的支援・動機付け支援) 講話・運動指導「やせる体操」	15	高橋 卓也
2/15	辰巳高齢者体操クラブ	高齢者体操	25	高橋 卓也
2/23	備前市吉永地区老人クラブ連合会	健康体操講習会	40	森下 明恵
2/26	山陽新聞事業社	住まいのリフォームフェア ストレッチで快適生活	5	高槻 祐子
3/12	公益社団法人 岡山県医師会	女性の健康習慣 県民公開講座 楽しく食べて100歳まで歩こう! ～骨を元気にするおいしい講座～	350	斉藤 剛
3/16	赤磐市山陽支部栄養委員会	第2回赤磐市山陽支部栄養委員会 運動指導「楽しく貯筋 生活に運動をプラス」	40	森下 明恵
3/24	株式会社和気ヤクルト工場	平成28年度工場方針に基づく体力測定 閉眼片足立ち・長座位体前屈・イス座り立ち	65	森下 明恵 高橋 卓也
3/30	株式会社和気ヤクルト工場	平成28年度工場方針に基づく体力測定 閉眼片足立ち・長座位体前屈・イス座り立ち	69	森下 明恵 斉藤 剛

2. 図書資料室

一般書から専門書まで健康に関する図書約 5,300 冊が閲覧できる。

平成 17 年 9 月から 3 階にある図書資料室より一般向けの図書の一部を、利用促進のため、1 階健康推進ゾーンにて閲覧、貸し出しができるように配置した。また、平成 26 年 12 月、更に本棚と蔵書の一部を 1 階健康推進ゾーンに降ろしたため、図書の閲覧が増え、貸し出し件数も増加した。貸し出しを受けた人数、貸し出された図書の冊数は、1 年間で 169 名、237 冊の利用があった。

3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室

1) 大会議室

貸し出し件数は、年間 27 件であった。

2) 小会議室

貸し出し件数は、年間 69 件であった。

3) 栄養指導室

貸し出し件数は、年間 13 件であった。

4) 多目的聴講室

貸し出し件数は、年間 22 件であった。

4. 研究室の開放

貸し出し件数は、年間 1 件であった。

(3) 調査・研究部門

1. 業績

1) 学会発表

ア 岡山県南部健康づくりセンター健康増進部門（運動施設）における高齢利用者の現状と課題

国橋由美子、関明穂、森下明恵、後藤礼子、豊田加奈子（第 23 回岡山県保健福祉学会、2017 年 1 月 23 日、岡山県）

イ 岡山県南部健康づくりセンター利用者の運動施設利用目的と生活習慣の関連

藤井由美子、関明穂、森下明恵、豊田加奈子、後藤礼子（第 30 回岡山県栄養改善学会、2017 年 2 月 18 日、岡山県）

2) 講演

ア 性同一性障害・性別違和などへの対応について

関明穂（広島市教育委員会主催 平成 28 年度「学校保健研修会」、2016 年 9 月 26 日、JMS 明日テールプラザ、広島市）

3) 雑誌掲載

ア LGBT の子どもたち あなたのクラスも無視できない

関明穂（体育科教育 12-15、64 巻 8 号（8 月号）、2016）

イ 性同一性障害・性別違和などの子どもたちと向き合う先生へ（連載）

関明穂

健 70-71、45 巻 5 号（8 月号）、2016

健 70-71、45 巻 6 号（9 月号）、2016

健 72-73、45 巻 7 号（10 月号）、2016

健 70-71、45 巻 8 号（11 月号）、2016

健 62-63、45 巻 9 号（12 月号）、2016

健 72-73、45 巻 10 号（1 月号）、2017

健 72-73、45 巻 11 号（2 月号）、2017

健 68-69、45 巻 12 号（3 月号）、2017

4) 研究助成

ア 健康づくりのための運動基準・運動指針改定ならびに普及・啓発に関する研究

主任研究者 宮地元彦（独立行政法人 国立健康・栄養研究所）

分担研究者 佐々木佐起子（岡山県南部健康づくりセンター）

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

- イ 現在の健康状態に及ぼす出生時体重と出生後の生活習慣の影響
主任研究者 田中茂穂（独立行政法人 国立健康・栄養研究所）
分担研究者 関明穂（岡山県南部健康づくりセンター）
日本学術振興会 科学研究費補助金・特別研究員奨励費

（４）スポーツ医科学部門

１．受診者数及びその内訳

興譲館高校（女子陸上部長距離）11 名が筋力測定、興譲館高校（女子陸上部長距離）の 5 名、環太平洋大学（研究のため）の 42 名が運動負荷試験を受けた。

(5) 健康診断（人間ドック）部門

1. 人間ドック

1) 受診者の内訳

年間で 9,213 件(男性 5,784 人、女性 3,339 人、計 9,123 人)の受診があり、前年度比 103.0 %の受診者数となった。

2) 検査項目別

部位・臓器・検査方法別の検査結果を以下に示す。

なお、現在医療機関でそれぞれの検査項目に関して治療中か経過観察中のものを「治療中」とした。それ以外のもののうち、検査項目内の結果がすべて正常であったものを「異常なし」、いずれかの検査結果が正常範囲からはずれているが問題ない範囲のものを「有所見」、経過観察が必要なものを「要観察」、医療機関での精密検査あるいは治療を要するものをそれぞれ「要精検」「要治療」とした。

また、「異常なし」「有所見」以外のものをまとめて「要観察以上」、検診によって新たに医療を要することが指摘された「要精検」「要治療」をまとめて「要医療」とし、各検査項目の受診者全体に対する「要観察以上」「要医療」のものの割合を算出した。

① 肥満度

BMI18.5 未満を低体重、18.5 以上 25.0 未満を普通体重、25.0 以上 30.0 未満を肥満 1 度、30.0 以上 35.0 未満を肥満 2 度、35.0 以上 40.0 未満を肥満 3 度、40.0 以上を肥満 4 度とした。

肥満 1 度以上のものは男性 2,036 人 (35.7 %)、女性 580 人 (19.4 %) であった。

	受診者数	低体重	普通体重	肥満 1 度	肥満 2 度	肥満 3 度	肥満 4 度
		-18.49	18.5-24.9	25.0-29.9	30-34.9	35-39.9	40-
男性(人)	5711	166 (2.9%)	3509 (61.4%)	1688 (29.2%)	302 (5.3%)	57 (1.0%)	9 (0.2%)
女性(人)	2994	352 (11.8%)	2062 (68.9%)	452 (15.1%)	100 (3.3%)	22 (0.7%)	6 (0.2%)

② 血圧

収縮期血圧 134mmHg 以下、拡張期血圧 85mmHg 以下を正常値、収縮期血圧 139mmHg 以下、拡張期血圧 89mmHg 以下を参考基準値とし、「治療中」ではないもので収縮期血圧、拡張期血圧ともに正常値であるものを「異常なし」、いずれかが正常値を超えるものの参考基準値は超えないものを「有所見」とした。

男性の 1,527 人 (26.8 %)、女性の 396 人 (13.2 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 998 人 (17.5 %)、女性 253 人 (8.5 %)、「要医療」のものは男性 129 人 (2.3 %)、女性 32 人 (1.1 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5705	3723 (65.3%)	455 (8.0%)	400 (7.0%)	0 (0.0%)	129 (2.3%)	998 (17.5%)
女性(人)	2990	2440 (81.6%)	154 (5.2%)	111 (3.7%)	0 (0.0%)	32 (1.1%)	253 (8.5%)

③ 心電図

男性の 542 人 (9.5 %)、女性の 161 人 (5.4 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 168 人 (3.0 %)、女性 33 人 (1.1 %)、「要医療」のものは男性 55 人 (1.0 %)、女性 15 人 (0.5 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5688	4348 (76.3 %)	798 (14.0 %)	319 (5.6 %)	53 (0.9 %)	2 (0.1 %)	168 (3.0 %)
女性(人)	2975	2473 (83.3 %)	336 (11.3 %)	113 (3.8 %)	15 (0.5 %)	0 (0.0 %)	33 (1.1 %)

④ 検尿

男性の 1,261 人 (22.2 %)、女性の 1,268 人 (42.6 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 59 人 (1.0 %)、女性 17 人 (0.6 %)、「要医療」のものは男性 110 人 (1.9 %)、女性 35 人 (1.2 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5690	3333 (58.6 %)	1096 (19.2 %)	1092 (19.2 %)	73 (1.3 %)	37 (0.7 %)	59 (1.0 %)
女性(人)	2976	1058 (35.6 %)	650 (21.8 %)	1215 (40.9 %)	32 (1.1 %)	3 (0.1 %)	17 (0.6 %)

⑤ 肝機能

男性の 2,216 人 (38.9 %)、女性の 463 人 (15.6 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 220 人 (3.9 %)、女性 45 人 (1.5 %)、「要医療」のものは男性 448 人 (7.9 %)、女性 59 人 (2.0 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5690	2412 (42.4 %)	1062 (18.7 %)	1548 (27.2 %)	340 (6.0 %)	108 (1.9 %)	220 (3.9 %)
女性(人)	2976	2004 (67.3 %)	509 (17.1 %)	359 (12.1 %)	49 (1.6 %)	10 (0.3 %)	45 (1.5 %)

⑥ 脂質異常症

男性の 4,473 人 (78.6 %)、女性の 1,915 人 (64.2 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 808 人 (14.5 %)、女性 300 人 (10.8 %)、「要医療」のものは男性 496 人 (9.6 %)、女性 197 人 (6.6 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5693	1055 (18.5 %)	165 (2.9 %)	3109 (54.6 %)	0 (0.0 %)	496 (8.7 %)	868 (15.2 %)
女性(人)	2981	844 (28.3 %)	222 (7.4 %)	1384 (46.4 %)	0 (0.0 %)	197 (6.6 %)	334 (11.2 %)

⑦ 耐糖能異常

男性の 3,287 人 (57.5 %)、女性の 1,181 人 (39.6 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 476 人 (8.4 %)、女性 67 人 (2.2 %)、「要医療」のものは男性 207 人 (3.6 %)、女性 37 人 (1.2 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5693	2405 (42.2 %)	1 (0.1 %)	2604 (45.7 %)	100 (1.8 %)	107 (1.9 %)	476 (8.4 %)
女性(人)	2981	1800 (60.4 %)	0 (0.0 %)	1077 (36.1 %)	22 (0.7 %)	15 (0.5 %)	67 (2.2 %)

⑧ 尿酸

男性の 1,758 人 (31.3 %)、女性の 50 人 (1.7 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 471 人 (8.3 %)、女性 5 人 (0.2 %)、「要医療」のものは男性 305 人 (5.4 %)、女性 6 人 (0.2 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5651	3885 (68.7 %)	8 (0.1 %)	982 (17.4 %)	0 (0.0 %)	305 (5.4 %)	471 (8.3 %)
女性(人)	2962	2905 (98.1 %)	7 (0.2 %)	39 (1.3 %)	0 (0.0 %)	6 (0.2 %)	5 (0.2 %)

⑨ 血液一般

男性の 615 人 (10.8 %)、女性の 599 人 (20.0 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 22 人 (0.4 %)、女性 50 人 (1.7 %)、「要医療」のものは男性 82 人 (1.4 %)、女性 139 人 (4.7 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5690	3690 (64.9 %)	1358 (24.3 %)	511 (9.0 %)	71 (1.2 %)	11 (0.2 %)	22 (0.4 %)
女性(人)	2976	1668 (56.0 %)	709 (23.8 %)	410 (13.8 %)	28 (0.9 %)	111 (3.7 %)	50 (1.7 %)

⑩ 超音波検査

腹部超音波検査により肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓等の検査を行った。

男性の 1,882 人 (57.2 %)、女性の 711 人 (40.2 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 0 人 (0.0 %)、女性 6 人 (0.3 %)、「要医療」のものは男性 94 人 (2.9 %)、女性 28 人 (1.5 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	3289	844 (25.7 %)	563 (17.1 %)	1788 (54.4 %)	85 (2.6 %)	9 (0.3 %)	0 (0.0 %)
女性(人)	1767	707 (40.0 %)	349 (19.8 %)	677 (38.3 %)	27 (1.5 %)	1 (0.1 %)	6 (0.3 %)

⑪ 胸部X線検査

CR装置による直接撮影を行った。

男性の429人(7.5%)、女性の105人(3.6%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性61人(1.1%)、女性26人(0.9%)、「要医療」のものは男性220人(3.9%)、女性56人(1.9%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	56835	4500 (79.1%)	754 (13.3%)	148 (2.6%)	219 (3.9%)	1 (0.1%)	61 (1.1%)
女性(人)	2943	2557 (86.7%)	281 (9.5%)	23 (0.8%)	55 (1.9%)	1 (0.1%)	26 (0.9%)

⑫ 胃部造影検査

DR装置による直接撮影を行った。

男性の2,134人(40.1%)、女性の833人(32.2%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性11人(0.2%)、女性0人(0.0%)、「要医療」のものは男性196人(3.7%)、女性59人(2.3%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5324	2493 (46.8%)	697 (13.1%)	1927 (36.2%)	191 (3.6%)	5 (0.1%)	11 (0.2%)
女性(人)	2583	1072 (41.5%)	678 (26.2%)	773 (29.9%)	57 (2.2%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)

⑬ 骨密度検査

DXA法により第2～第4腰椎正面の骨密度を測定した。

男性の10人(41.7%)、女性の185人(80.5%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性0人(0.0%)、女性30人(13.0%)、「要医療」のものは男性2人(8.3%)、女性25人(10.8%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	24	14 (58.3%)	0 (0.0%)	8 (33.3%)	2 (13.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性(人)	231	45 (19.5%)	1 (0.4%)	131 (56.7%)	25 (10.8%)	0 (0.0%)	30 (13.0%)

3) 婦人科検診

① 乳がん検診

乳がん検診として、視触診とマンモグラフィ、乳房超音波検査とを行った。

乳がん検診の総受診者数は2,236人であった。前年度に比べ234人の増加であり、乳がん検診の無料クーポン券配布による効果がまだ続いていると考えられた。また、マンモグラフィ受診者は1,537人であった。

乳がん検診受診者の206人(9.2%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療

中」のものは18人(0.8%)、「要医療」のものは92人(4.1%)であった。マンモグラフィも実施したものに限り、77人(5.0%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは4人(0.3%)、「要医療」のものは68人(4.4%)であった。

乳がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2236	825 (36.9%)	1205 (53.9%)	96 (4.3%)	92 (4.1%)	0 (0.0%)	18 (0.8%)
マンモグラフィ	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	1537	595 (38.7%)	865 (56.3%)	5 (0.3%)	68 (4.4%)	0 (0.0%)	4 (0.3%)

② 子宮がん検診

子宮がん検診として、子宮頸部細胞診と婦人科診察、経膈超音波検査を行った。子宮頸部細胞診ではclass I、IIを正常とし、class IIIa以上を「要精検」とした。子宮がん検診の受診者数は2,055人であった。

受診者の351人(17.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは29人(1.4%)、「要医療」のものは162人(7.9%)であった。また、子宮頸部細胞診でclass IIIa以上の「要精検」であったものは25人(1.2%)であった。

子宮がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2055	1700 (82.7%)	4 (7.2%)	160 (7.8%)	120 (9.8%)	42 (2.0%)	29 (1.4%)
細胞診	受診者数	class I	class II	class IIIa	class IIIb	class IV	class V
女性(人)	2055	0 (0.0%)	2030 (98.7%)	24 (1.2%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

2. 脳ドック

脳ドックの受診者数は340人(男性231人、女性109人)であった。

男性の16人(6.9%)、女性の11人(10.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性0人(0.0%)、女性0人(0.0%)、「要医療」のものは男性7人(3.0%)、女性7人(6.4%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	231	112 (48.5%)	103 (44.6%)	9 (3.9%)	7 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性(人)	109	54 (49.5%)	44 (40.4%)	4 (3.7%)	7 (6.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

3. らせんCT 胸部検診

らせんCT 胸部検診は、肺がんの早期発見に威力を発揮することが注目されて普及し、着実に受診者に浸透しつつある。今後も慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患の早期発見や、禁煙への動機づけにも有効であるため、普及啓発に今後とも力を注いでいくことが重要とされている。

らせんCT 胸部検診の受診者数は269人（男性238人、女性31人）であった。

男性の59人（24.8％）、女性の7人（22.6％）が「要観察以上」であり、「要医療」のものは男性25人（10.5％）、女性3人（9.7％）であった。「治療中」のものは男性1人（0.4％）、女性1人（3.2％）であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	238	32 (13.4%)	147 (61.8%)	33 (13.9%)	25 (10.5%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)
女性(人)	31	3 (9.7%)	21 (67.7%)	3 (9.7%)	3 (9.7%)	0 (0.0%)	1 (3.2%)

6 普及啓発事業

(1) 財団の広報

ホームページの更新、広報誌の発行、他団体広報誌へ記事の提供等を通して、財団の広報に努めた。

1) 広報誌の発行

広報誌「健康と環境」を年3回発行し、事業の紹介と県民の健康づくり、環境保全に関する意識の高揚を図った。

- ・発行部数 第68号 5,000部（4月20日発行）
第69号 5,000部（8月20日発行）
第70号 5,000部（12月20日発行）
- ・主要配布先 県、市町村、教育委員会、学校、警察署、保健所、近隣町内会、
医師会、病院協会、福祉施設、事業所等

2) ホームページ更新

財団ホームページに、財団の事業紹介、健康情報・生活環境に関する情報提供、セミナーや教室の案内、各種行事の予定等を随時更新し、紹介した。

(2) 結核予防に関する事業

結核は、60年前までは、死亡原因の第一位であったが医療や生活水準の向上により、薬による完治が可能になった。しかし依然として岡山県においても年間200名以上の患者が発生する重大な感染症であることから啓発活動を行っている。

1) 広報・募金活動

結核予防思想の普及と事業資金確保のため世界中で行われている複十字シール運動（8月1日～12月31日）について、県、市町村及び岡山県愛育委員連合会の協力を得て、積極的に普及啓発活動及び募金活動を実施した。また結核予防週間（9月24日～30日）を中心に結核予防に関するポスター（3,000部）等の広報資材を、保健所、市町村、病院等を通じて広く県民に配布し啓発に努めた。

期間中の大規模な街頭活動として、9月17日 JR 倉敷駅において、県や市、岡山県愛育委員連合会、岡山県診療放射線技師会と共催で街頭キャンペーンを行った。このキャンペーンでは、結核撲滅の呼びかけを行うとともに、チラシ、ポケットティッシュ等の啓発資材（3,800組）を活用し募金を呼びかけた。

- ・募金額 2,159,030円（平成29年3月31日現在）
- ・募金の使途 胸部疾患予防思想の普及啓発事業

2) 知事表敬訪問

7月31日、全国一斉複十字シール運動開始にあたり、理事長が岡山県愛育委員連合会長とともに、知事を表敬訪問し運動への理解と協力を要請した。

(3) がん予防に関する事業

1) 「がん征圧岡山県大会」の開催

8月31日、岡山県医師会館三木記念ホールにおいて岡山県、県医師会と共催で、「大切なあなたと一緒に がん検診」をスローガンに、がん征圧岡山県大会を開催した。約300名の参加を得て、がん予防事業功労者への表彰や研究助成金の贈呈、肺がんをテーマに講演会を開催し、がん予防に関する啓発活動を行った。

2) キャンペーン放送の実施

がん征圧月間中を中心に、テレビ・ラジオ放送において広報活動を行った。

3) その他の啓発活動

がん征圧運動推進に関する協定を締結している岡山の女子サッカークラブ「岡山湯郷 Belle」と協働して、女性のがん（乳がん・子宮頸がん）検診啓発のポスターや啓発資料を作成。市町村・病院・大学等へ配布し、がん予防の啓発に努めた。

また、9月24日、シティーライトスタジアムの湯郷 Belle ホームゲームにおいてがん検診の啓発活動を行った。

ピンクリボン運動月間（10月）を中心に乳がんについての啓発活動を行う「ピンクリボン岡山」の実行委員会に参加し、10月15日には、岡山コンベンションセンターにおいてマンモグラフィ検診車による無料検診（34名）を実施した。

4) 募金

がん予防を推進するために協力を呼びかけ、312件3,387,656円の募金等を頂いた。

(4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）

1) 街頭キャンペーンの実施

5月31日の世界禁煙デーに先立ち30日に、岡山駅、津山駅等で、県・市町村職員、愛育委員、禁煙アドバイザー等の協力を得て街頭活動を行い、啓発チラシ（20,700枚）、ポケットティッシュ（25,800個）を配布し、禁煙を呼びかけた。

2) ポスターコンクールの開催

県下の小学校4年生～6年生を対象に、禁煙啓発ポスターコンクールの作品を募集した。14校から172点の応募作品があり、入賞者8名を8月のがん征圧岡山県大会で表彰した。入賞作品を掲載したカレンダー（2,800枚）を作成し、県、市町村、県警及び県下の学校等関係機関へ配布した。

3) 岡山県知事訪問

世界禁煙デーを前に、県下各地で実施する街頭活動の意義及び目的を県知事に説明し、協力頂くことを目的として表敬訪問した。

4) 講師の派遣

教育機関、一般企業等で開催された禁煙に関する研修等に、医師を講師として派遣し禁煙の啓発に努めた。

5) 教材等の貸出

たばこの害についてのチラシの配布や、スモーカーライザーを貸し出し、教育機関や一般企業独自の啓発活動を支援した。

6) 募金

禁煙普及啓発を推進するために、当協議会に346件360,000円の募金を頂いた。

(5) 「健康おかやま21」への参加

生活習慣病改善による健康づくりの推進を目的としており、またメタボリックシンドロームに注目があてられている中、生活習慣病予防の普及に努めた。

(6) 助成事業

1) がん助成

がんに関する研究・研修事業に対して対がん基金による助成を行った。

- ・精神疾患を抱える患者のがん検診受診行動とその関連要因についての調査
岡山大学病院 精神科神経科 講 師 稲垣 正俊 氏
- ・医学生、研修医の教育用骨髄穿刺・生検シミュレータの新規開発
岡山大学病院 血液腫瘍内科 助 教 西森 久和 氏
- ・がんの治療のための超小型放射線源の開発
岡山大学大学院 保健学研究科 助 教 花元 克巳 氏

2) 健康づくり関係団体への助成

県民の健康づくりを推進している、岡山県愛育委員連合会、岡山県栄養改善協議会等の関係団体に助成を行った。

(7) 会議等の開催

区 分	開催 年月日	会 場	議 題
会計監査	H28. 5. 25	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2	1. 平成27年度決算について
会計・業務監査	H28. 5. 27	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2	1. 平成27年度事業実績について 2. 平成27年度決算について
第1回理事会	H28. 6. 13	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 平成27年度各事業実施及び収支決算 について
定時評議員会	H28. 6. 27	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 平成27年度各事業実施及び収支決算 について 2. 理事の選任について
第2回理事会	H29. 3. 24	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 平成28年度各事業計画及び収支予算案 について 2. 事務局長の選任について 3. 保健部健診システムの更新について
みなし決議	H28. 8. 29	—	1. 評議員の選任について

事業年報 平成 28 年度

発 行 公益財団法人 岡山県健康づくり財団
〒700-0952 岡山市北区平田 408-1
TEL 086-246-6254 FAX 086-246-6258
E-mail : zaidan@okakenko.jp